

# VIEWnext

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

[ビューネクスト] 高校版

2023

10

October

特集 3年生0学期目前!

## 2025年度大学入試に向けた 指導・支援を考える

表紙の学校  
広島県立  
呉三津田高校



### 指導変革の軌跡

徳島県立名西高校

発問・課題設定をキーに見る  
主体的・対話的で深い学び 授業実践

音楽 北海道羽幌高校 小山知倫

生物 東京都・私立三田国際学園中学校・高校 大野智久



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、  
授業のダイジェストを動画で紹介!

<https://view-next.benesse.jp/>



# 先生なら、 どうしますか？

教師は、生徒の「どうあるべきか、どう生きていくか」という答えが1つではない問いに、生徒とともに日々向き合う。教師としての指導観を問われた「あの瞬間」を、当事者の教師が振り返る。

真面目な生徒のルール違反。  
見て見ぬ振りが  
できなかつた私が迎えた  
想定外の結末

## 鳥取県立鳥取東高校 福島卓也

ふくしま・たくや ● 同校に赴任して1年目。教頭。  
鳥取県教育委員会認定「エキスパート教員(高校英語)」  
として、鳥取県の英語教育をけん引してきた。  
「生徒に化学反応を起こす触媒が教師である」という  
信念の下、生徒と向き合い続ける。

10 年ほど前のことです。昼休みに、学年主任を務める2  
学年の教室が並ぶ廊下を歩いていると、1人の女子生  
徒が、校内では使用禁止の携帯電話を、机の下で隠すようにし  
て操作しているのが目に入りました。授業態度がよく、ルール  
違反とも無縁だったその生徒の意外な行動を、私は一瞬「見な  
かったことにしよう」としました。しかし同時に生まれた「なぜ、  
あの子が？」という思いが、私を教室に引き込みました。

あと1メートルもないところまで近づいて来た私に気づいた  
生徒は、少し困ったような表情を浮かべただけで、黙って私に  
携帯電話を差し出しました。ひと言「預かるね」と私。無言で  
うなづく彼女。私は鮮やかなブルーの携帯電話を手に職員室に  
戻り、当時のルールに従って、3日間保管しました。

3日後、生徒が携帯電話を引き取りに職員室にやってきました。  
面談室に移動し、携帯電話を差し出しながら私は、「携帯電  
話のない生活はどうだった？」と尋ねました。携帯電話を預  
かった生徒には、返却時に必ずかけていた言葉でした。

次の瞬間、生徒は押し止めていた感情があふれ出たよう  
な激しさで泣き出しました。私は驚きつつも、生徒の  
言葉を待ちました。突然の涙には何か理由があるはずだと思っ  
たからです。1分ほど経ち、落ち着きを取り戻した生徒は、気  
持ちの整理がついたかのように語り始めました。最近、友人と  
メールで連絡を取り合うようになったが、連絡が来たらすぐに  
返事をしないといけない雰囲気になり、家でも学校でも携帯電  
話が気になって仕方がなかった。このままではいけないと思っ  
たけれど、どうすることもできないでいたところを先生に見つ  
かってしまったと。生徒は意を決したような表情で続けました。  
「3日間携帯電話から離れて、気持ちがすごく楽になりました。  
今日この後友達には、家や学校にいる時はすぐには返事はでき  
ないと、はっきり言います」。そして、「すみませんでした」で  
も「もうしません」でもなく、「ありがとうございました」と言っ  
て、面談室から出ていきました。

遠ざかる生徒の足音を聞きながら、私は怖くなりました。も  
しもあの時、私が「真面目な子だから」と見逃していたら、彼  
女は今も苦しんでいたかもしれない。教師として、目の前の生  
徒を見ることは当然だが、今日に見えている生徒の姿は、必ず  
しも内面と一致した姿であるとは限らない。生徒を見るとはど  
ういうことなのか。私は面談室で独り、自問を続けていました。

一瞬「見なかったことにしよう」と思った福島先生が  
足を止めたのは、たまたまのことだったのか？ それ  
とも、何か理由があったのか？ 本エピソードの詳細  
が読めるウェブオリジナル記事を、ぜひご覧ください。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article17074/>



## 巻頭 先生なら、どうしますか？

真面目な生徒のルール違反。見て見ぬ振りができなかった私が迎えた想定外の結末  
鳥取県立鳥取東高校 福島卓也

## 2 特集

# 3年生0学期目前！ 2025年度大学入試に向けた指導・支援を考える

18 発問・課題設定をキーに見る  
主体的・対話的で深い学び 授業実践

18 音楽  
北海道羽幌高校 小山知倫  
音楽的な見方・考え方を働かせ、自分の思いや考えを表現する力を高める

22 生物  
東京都・私立三田国際学園中学校・高校 大野智久  
概念的な知識の理解を重視し、「教え過ぎない授業」に  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

26 探究学習 伴走する教師たち  
東京都・私立多摩大学附属聖ヶ丘中学高校 出岡由宇  
たくさんの大人に会おう！ 地域の温かさの中で失敗を学びに変える生徒たち  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

28 そうだったのか！ 学習評価  
「主体的に学習に取り組む態度」の評価  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

30 生徒の可能性を引き出す 新進路選択支援 **新連載**  
北海道・私立札幌新陽高校  
ビジョンの「人物多様性」に基づき、個性を尊重した支援を追求  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

32 指導変革の軌跡  
徳島県立名西高校  
目標と指導と評価の一体化  
「育成したい6つの資質・能力」を意識した指導と評価で、生徒の主体性を育む  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

36 新課程レポート  
生徒のキャリア・進路観の醸成につながる  
デザイン思考を用いた「総合的な探究の時間」とは  
実践事例 宮城県宮城野高校  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

40 追跡！ 働き方改革  
生き生きと働き続けられる学校づくりへの挑戦  
愛媛県立松山南高校編  
第2回 負担感のある業務を見える化  
同僚性の向上と削減業務の見極めを図る  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

42 ともに生徒を育てる 地域と学校 **新連載**  
和歌山県・私立  
近畿大学附属新宮高校・中学校  
地域や医療の実態などを学ぶゼミが、生徒も地域も活力を得る場に  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

44 創り人からのメッセージ For Society, For School  
現代アート作家 富永ボンド  
つながりを通して伝えたい。  
アートにも人生にも「失敗はない！」ことを。  
お勤めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

52 Reader's VIEW

<https://view-next.benesse.jp/>

本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINEでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス 編集協力／(有)ベンダコ 執筆協力／二宮良太、長谷川敦 撮影協力／荒川 潤、奥田敬輔、岸 隆子、鍋坂樹伸、萩 康博、ヤマグチイッキ イラスト協力／伊藤美樹、カモ  
※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。  
※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 © Benesse Corporation 2023

# 試に向けた指導・支援を考える

P.4 課題整理

## 2025年度大学入試の情報整理

ベネッセコーポレーション 教育情報センター センター長 谷本祐一郎

P.7 教科指導

## 2025年度大学入試で求められる力と教科指導

全体 ベネッセコーポレーション 進研模試 編集長 三宅悠介

国語 岡山県立岡山城東高校 田中誠一郎

歴史総合 愛知県立大府高校 野々山 新

情報I 兵庫県・私立雲雀丘学園中学校・高校 林 宏樹



P.14 進路指導

## 2025年度大学入試に向けた進路指導のポイント

北海道札幌北高校 進路指導部長 高桑知哉


福井県立若狭高校 キャリアサポートセンター室長 小坂康之

奈良県・私立西大和学園中学校・高校 高校1年生担任 梨子田 喬



### 姿、教師の役割


#### ③ 国公立大学を年内入試で目指す生徒が多い学校のケース

**生徒 BEFORE** 

拡大した年内入試に対して  
安易な進路選択を行う姿勢  
から

**学校現場でよく聞く声 (\*3)**

- 進路選びについて生徒の「こだわり」が薄い。大学選択は「行きたい」より「入れる」。指定校や総合型での選択となる。
- 学習でのつまずきが多く、分からない部分はリセットされてしまう。


**生徒 AFTER** 

自分が生かせる志望先を探索・研究し、こだわりを持った進路選択ができる状態に。

指導の重点は  
「こだわり」を持った選択を促す進路支援。

指導の重点は  
学習環境担保で生徒の「分からない」を解消。


#### ④ 大学・専門学校・就職など、生徒が幅広く希望する学校のケース

**生徒 BEFORE** 

これまでの経験によって自己肯定感が低い状態から

**学校現場でよく聞く声 (\*3)**

- 生徒の基礎学力と自己肯定感を高めたい。「やればできる」を実感させたい。
- 年内入試に伴う小論文、志望理由書作成の指導・対策に手間と時間がかかる。

**生徒 AFTER** 

自分自身の可能性に気づき、進路・学習に前向きになれる状態に。

指導の重点は  
前向きな声かけで生徒の自己肯定感を高め続ける。

指導の重点は  
義務教育範囲の学び直しから進路対応力育成まで。

3年生0学期  
目前!


# 2025年度大学入

生徒の意識を受験生へと切り替える、いわゆる3年生0学期が近づいてきました。当事者である現高校2年生が受験する2025年度大学入試は、新学習指導要領に対応した入試の実施初年度となります。大幅な改訂となった今回の学習指導要領の影響を最も大きく受ける入試が大学入学共通テストですが、同テストは国立・公立大学の一般選抜や私立大学の同テスト利用入試だけでなく、年内入試(\*1)における学力試験として課す大学も少なくありません。もちろん、国立・公立大学の個別学力検査や私立大学の個別入試も新学習指導要領に対応した内容になりますから、各校には、25年度入試に向けた今後1年間の生徒への指導・支援のあり方や計画をしっかりと考え、それらを実現・実行していくことが求められます。とは言え、下図のように、国立・公立大学志望者と私立大学志望者、一般選抜希望者と年内入試希望者、それぞれどちらを志望・希望する生徒が多いかなどによって、各校の生徒の課題や目指す姿、教師に求められる役割も異なるものと思います(下図は、多くの読者からご好評をいただいた、本誌8月号の特集のP.8に掲載した図8に、一般選抜で大学進学を目指す生徒が多い学校のケース①を加えた図です)。そうした各校の実情に合った指導・支援のあり方を考える際にお役立ていただくべく、本特集を企画しました。25年度入試に向けた指導・支援は、下図のAFTERの生徒の姿を実現するとともに、社会に出てからも生きる資質・能力を生徒に育成する大きな好機となるはずです。年内入試支援をテーマとした本誌8月号の特集とともに、今号の本特集がその一助になれば幸いです。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

## 学校・生徒の状況によって異なる教師の役割 希望進路ケース(\*2)別 生徒の課題と目指す


### ① 選抜性の高い難関大学を一般選抜で目指す生徒が多い学校のケース

生徒  
BEFORE   
新課程・新入試の量的変化  
に対して、受動的に学習する  
姿勢から

学校現場でよく聞く声(\*3)

- 過去問題のない新課程入試に伴い、高い目標を目指そうとしない。
- 次世代リーダーの基礎力にもつながる探究の取り組みだが、通り一遍のもので終わっている。

EMPOWERMENT

生徒  
AFTER   
強み・弱みの把握に基づき、  
主体的に計画を立て、実行  
できる姿勢に。

指導の重点は  
学力のみならず粘り強さまで育む。

指導の重点は  
声かけの継続で生徒の背中を押し続ける。


### ② 国公立大学を一般選抜・年内入試で目指す生徒が多い学校のケース

生徒  
BEFORE   
年内入試希望者が増加して  
いる状況下で、安易に志望  
を下げてしまう姿勢から

学校現場でよく聞く声(\*3)

- 志望校へのこだわりが弱く、教師・保護者の認める大学へという志向が強い。
- 受け身的な学習で伸び悩む生徒をうまくサポートできない。

EMPOWERMENT

生徒  
AFTER   
希望する進路実現のために  
学びに向かう姿勢に。

指導の重点は  
「自分軸」が貫かれた志望動機づくり。

指導の重点は  
一般選抜・年内入試に応じた個別最適へと導く。

\*1 総合型選抜(旧AO入試)と学校推薦型選抜を指す。9~12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い両選抜を、ここでは「年内入試」と総称する。

\*2 ケース分けはあくまで例であり、複数ケースにまたがる学校等があるものと考えます。

\*3 入試に関連する声を抜粋。

# 2025年度大学入試の情報整理

2025年度大学入試は、新学習指導要領に対応した最初の入試であるため、前年度の入試からの変更点が多く、情報の整理・把握が欠かせない。ここでは、25年度入試のポイントを解説する。

## 大学入学共通テストの変更点

まずは2025年度大学入学共通テスト（以下、25年度共通テスト）について見ていきます。従来からの出題教科の中で大きな変化があるのが、国語と地理歴史・公民、そして数学です（図1）。

◎**国語** 25年度共通テストから、実用的な文章の大問が1問追加され、近代的な文章は3問で110点、古典は以降の文章は2問で110点、古典は2問で90点となります。試験時間は現行の共通テストよりも10分長い90分です。試作問題では、生徒の言語活動の場面が設定され、複数の文章・図表・グラフを解釈する力や、それらに関連づけて考察する力が求められました。大学入試センターは、問題作成方針に関する検討の方向性として、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた問

題を検討するとしており、スピーディな読解力と多様なジャンルの文章への対応力が問われることになりそうです。

◎**地理歴史・公民** 25年度共通テストからは、6つの出題科目より最大2科目を選択しますが、『地理総合／歴史総合／公共』の選択を不可としている大学・学部がある点には、注意が必要です。特に難関国立大、ブロック大では選択不可としている大学・学部が多くあります（図2）。そのため、『地理総合／歴史総合／公共』以外の出題科目、つまり『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から選択した方が、受験大学の選択肢が広がります。

共通テストで『地理総合／歴史総合／公共』を選択した場合、選択解答した問題の出題範囲の科目と同一名称を含有

む科目の組み合わせを選択することはできない（例えば、『地理総合／歴史総合／公共』で『歴史総合』と『公共』を選択した場合、もう1科目として『歴史総合、日本史探究（または世界史探究）』を選択することはできない）ことにも注意が必要です。『地理総合／歴史総合／公共』の選択と、他の科目との組み合わせの可否は、ウェブサイト『VIEWnext ONLINE』で確認できます（P.6参照）。

◎**数学** 数学②がポイントとなります。現行の共通テストに存在する『数学II』『数学II：数学B』は廃止され、『数学II、数学B、数学C』となり、試験時間は現行の共通テストよりも10分延びて、数学①と同じ70分となります。数学②の『数学II、数学B、数学C』のうち、『数学B』については2項目の内容（数列、統計的な推測）、『数学C』



「解説」  
ベネッセコーポレーション  
教育情報センター センター長  
谷本 祐一郎  
たにもと・ゆういちろう

については2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）に対応した出題とし、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答します。そのため、文系の受験者も、少なくとも『数学C』の1大問を解答することが求められます。

なお、個別試験で『数学B』か『数学C』を課す国公立大文系学部のうち、出題範囲を数列（『数学B』）とベクトル（『数学C』）としている募集単位は約75%となっています（図3）。そのため文系学部を志望する生徒の多くが、個別学力検査も共通テストで選択する『数学B』『数学C』の分野で受験することが可能となる見通しです。

図1 2025年度大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等(予告)

教科	グループ	出題科目	出題方法 (出題範囲、出題科目選択の方法等) 出題範囲について特記がない場合、出題科目名に含まれる 学習指導要領の科目の内容を総合した出題範囲とする。	試験時間 (配点)
国語		『国語』	『現代の国語』及び『言語文化』を出題範囲とし、近代以降の文章及び古典(古文、漢文)を出題する。	90分(200点)
地理歴史		『地理総合、地理探究』 『歴史総合、日本史探究』 『歴史総合、世界史探究』 『公共、倫理』 『公共、政治・経済』 『地理総合/歴史総合/公共』	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。</li> <li>(a)の『地理総合/歴史総合/公共』は、『地理総合』、『歴史総合』及び『公共』の3つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する(配点は各50点)。</li> <li>2科目を選択する場合、以下の組み合わせを選択することはできない。</li> <li>(b)のうちから2科目を選択する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組み合わせを選択することはできない。</li> <li>(b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合(b)については、(a)で選択解答するものと同一名称を含む科目を選択することはできない。</li> <li>受験する科目数は出願時に申し出ること。</li> </ul>	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点)
公民		(a): 必修科目を組み合わせた出題科目 (b): 必修科目と選択科目を組み合わせた出題科目		
数学	①	『数学I、数学A』 『数学I』	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。</li> <li>『数学A』については、図形の性質、場合の数と確率の2項目に対応した出題とし、すべてを解答する。</li> </ul>	70分(100点)
数学	②	『数学II、数学B、数学C』	<ul style="list-style-type: none"> <li>『数学B』及び『数学C』については、数列(『数学B』)、統計的な推測(『数学B』)、ベクトル(『数学C』)及び平面上の曲線と複素数平面(『数学C』)の4項目に対応した出題とし、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答する。</li> </ul>	70分(100点)
理科		『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記出題科目の5科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。</li> <li>『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』は、『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』及び『地学基礎』の4つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する(配点は各50点)。</li> <li>受験する科目数は出願時に申し出ること。</li> </ul>	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点)
外国語		『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。</li> <li>『英語』は『英語コミュニケーションI』、『英語コミュニケーションII』及び『論理・表現I』を出題範囲とし、【リーディング】及び【リスニング】を出題する。受験者は、原則としてその両方を受験する。その他の科目については、『英語』に準じる出題範囲とし、【筆記】を出題する。</li> <li>科目選択にあたり、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配布を希望する場合は、出願時に申し出ること。</li> </ul>	『英語』 【リーディング】80分(100点) 【リスニング】60分(うち解答時間30分)(100点) 『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』 【筆記】80分(200点)
情報		『情報I』		60分(100点)

試験時間は、現行の80分から10分延長。分野別の大問数及び配点は、近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)。

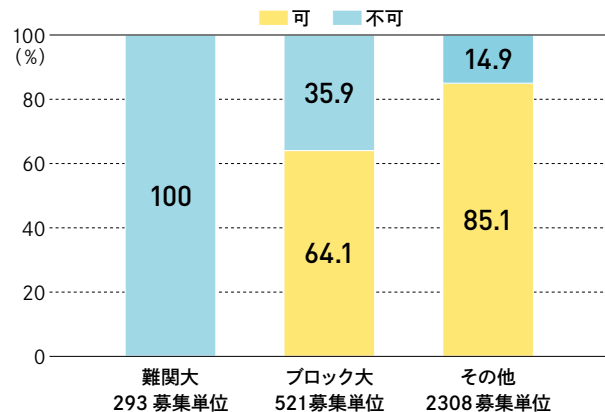
試作問題の配点は、総合科目が25点、探究科目が75点だった。

出題範囲に『数学C』が含まれ、選択解答数が現行の2項目から3項目へ増加。試験時間も現行の60分から10分延長。

新設科目となる『情報I』の試験時間は60分。

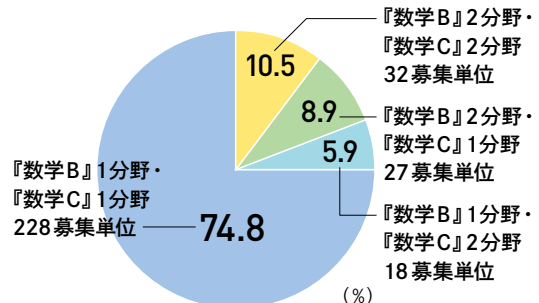
※大学入試センター公表の資料を基に編集部で作成。

図2 共通テストにおける『地理総合/歴史総合/公共』選択の可否(国公立大学一般選抜)



※難関大は、北海道大、東北大、東京工業大、東京大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大の10大学。ブロック大は、筑波大、千葉大、横浜国立大、新潟大、金沢大、岡山大、広島大、熊本大、東京都立大、大阪公立大の10大学。  
※2023年7月上旬時点の大学公表情報(3122募集単位)を基に編集部で作成。

図3 文系学部の個別試験で数学を課す際の『数学B』『数学C』の試験範囲(国公立大学一般選抜)



※文系学部の、個別試験で『数学B』、『数学C』を課し、『数学B』は数列、統計的な推測、『数学C』はベクトル、平面上の曲線と複素数平面の中から出題すると公表した募集単位の内訳。

※『数学B』2分野は数列、統計的な推測、『数学B』1分野は数列、『数学C』2分野はベクトル、平面上の曲線と複素数平面、『数学C』1分野はベクトル。2分野と1分野が選択可能な場合は2分野で集計。

※2023年7月上旬時点の大学公表情報(305募集単位)を基に編集部で作成。

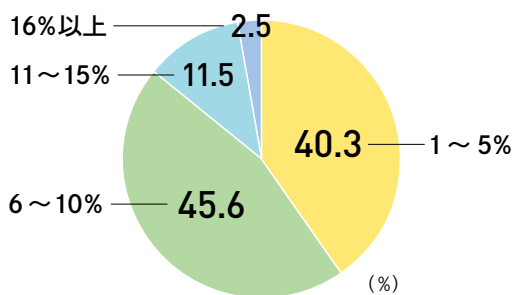
## 新たに設定された『情報Ⅰ』について

25年度共通テストからは、新たに『情報Ⅰ』が出題科目として設定されます。23年7月までの時点で、国立大学の一般選抜の募集単位のうち、約95%が共通テストの『情報Ⅰ』を必須としています（公立大学では約43%の募集単位が必須）。共通テストにおける情報の配点割合は、6〜10%とする募集単位が多いです（図4）。募集単位によっては、地理歴史・公民や理科と同じような配点割合となっているため、十分な対策が必要です。

『情報Ⅰ』は、「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の4項目で構成されますが、試作問題では「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の2項目が、配点100点満点中77点を占めました。

22年度に全国の高校生が受検した、『情報Ⅰ』を出題範囲とするベネッセのアセスメント「Pプラス」の結果の分析によると、「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」は、ほかの項目に比

図4 共通テストにおける情報の配点割合



※情報を必須で課し、該当情報公表が確認された653募集単位を分析（大学・学部・学科・日程・方式）。

※次の大学の該当募集単位は集計外（東北大：数学、理科、英語、情報の成績は1段階選抜のみ利用、徳島大：情報は点数化しない、高知大：情報はボーダーライン上でのみ加味する、九州大：6教科受験のうち、情報以外の5教科から高得点の2教科で可否を判定）

※2023年7月上旬時点の大学公表情報（1438募集単位）を基に編集部で作成。

べて正答率が低くなっていました。そのため、それらは今後、特に力を入れて対策すべき項目と言えます。（『情報Ⅰ』の授業実践と入試対応について、『VIEW next』高校版8月号P.38〜41で解説しています）

25年度共通テストでは、旧教育課程履修者に配慮した経過措置が地理歴史・公民、数学、情報で講じられます。これまでの経過措置と比べても、25年度入試では、得点調整も含めて既卒生が不利にならないような準備が行われています。

なお、大学入試センターが発表した

時間割（イメージ）では、1日目、2日目いずれの試験終了時間も、現行の共通テストより10分ずつ後ろ倒しになっています。体力・集中力が一層求められる試験となるため、模擬試験などを利用して、2日間の時間の感覚を身につけておくことが大切です。

各大学の25年度入試の出題科目の公表も進んでいます。特に大きな変更と

図5 国公立大学の25年度入試における出題教科・科目の公表状況

大学名	共通テスト			個別試験			
	『情報Ⅰ』		地理歴史・公民	情報	国語	数学	地理歴史
	必須か	配点公表	選択科目	課すか	試験範囲		
東京大	●		×		●	●	
東京医科歯科大	●	●	▲				
東京外国語大	○	●	×				

【共通テストの各欄の記号について】

『情報Ⅰ』は必須か

● 全募集単位が必須

○ 必須の募集単位がある

▲ 必須の募集単位がない

『情報Ⅰ』の配点公表

● 公表されている募集単位がある

★ 配点しない（配点に条件がある）

地理歴史・公民の選択科目

『地理総合/歴史総合/公共』の

● 選択を認める

▲ 選択を認めない募集単位がある

× 選択を認めない

※各大学の公表資料を基に編集部で作成。

## ●ウェブサイト『VIEW next ONLINE』で一覧化した情報を公開

共通テストにおける『情報Ⅰ』の取り扱いや地理歴史・公民の選択科目、個別試験における国語、数学（文系学部）の試験範囲などを一覧にして整理しています。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article17143/>

なる地理歴史・公民の選択科目と『情報Ⅰ』の取り扱いについては、生徒の出願大学の検討にも影響を及ぼすため、早めの情報収集が求められます。ベネッセ教育情報センターでは、25年度入試の各大学の公表状況（図5）を随時更新し、公開していますので、ぜひご確認ください。



# 2025年度大学入試で求められる力と教科指導

新学習指導要領に対応した最初の大学入試となる2025年度入試。入試本番までおよそ1年前となる「3年生0学期」から求められる教科指導は、どのようなものなのか。大学入学共通テストの試作問題を踏まえ、現場の教師、そして進研模試編集長が考察した。

## 全体

### 新学習指導要領の趣旨が色濃く反映された試作問題

#### 入試本番に向けた指導上の課題

2022年11月に大学入試センターが公表した25年度大学入学共通テストの試作問題は、これまでの問題作成方針の考え方である、「主体的・対話的で深い学び」を通して育成される深い理解を伴った知識の質や、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められるなど、新学習指導要領の趣旨を踏まえた問題となっていました（\*）。

最も注目すべきは、科目構成が大き

く変わった地理歴史・公民の全6科目と数学、新たに出題科目として設定された『情報Ⅰ』の試作問題が公表されたことでしょうか。それらは出題科目の全体の構成が分かる問題となっており、これからの指導計画にも大きく影響を与えるものと思われます。

また、『国語』では、複数の資料を、比較・関連づけたたり、多角的に評価したりすることを重視した大問が1つ追加され、『英語』では「リーディング」「リスニング」のそれぞれの問題で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られて

いることを踏まえた問題が示されました。いずれも新学習指導要領で求められている教科・科目の本質を重視した問題となっていました。

試作問題を見た現場の先生方は、どのような課題を感じているのでしょうか。弊社が行った調査（23年3月実施・799校が回答）では、教科・科目を問わず、読解力の育成の必要性を指摘する声が多く上がりました。問題文から問題を見いだす力や、複数の資料を比較・関連づける力などを合わせて読解力と捉えていると思われませんが、そのような力は、新学習指導要領の下、

多くの学校で育成が図られています。いよいよ25年度入試に向けて、3年生0学期以降の授業では、育成してきた各教科・科目の見方・考え方を、問題を通じて発揮していくことが求められます。

次ページからは、『国語』『歴史総合』『情報Ⅰ』について、現場の先生方に指導のポイントをお話ししていただいています。いずれの先生も、資質・能力ベースの指導へと転換を図り、知識や情報の活用を重視した授業展開を実現しています。弊社の大学入学共通テスト模試のモデル問題と併せて、今後の指導の検討にお役立てください。



ベネッセコーポレーション  
進研模試 編集長  
三宅 悠介  
みやけ ゆうすけ

\* 進研模試編集部による、大学入学共通テストの試作問題の分析は、以下のURL [https://bhso.benesse.ne.jp/hs\\_online/sidou/shinkatei/article/20221111\\_mondaibunseki/index.html](https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20221111_mondaibunseki/index.html) または、右の2次元コードからアクセスしてください。アクセスには、ベネッセハイスクールオンラインのIDとPWが必要です。





# 新たなタイプの文章を題材とする大問においても、求められるのは論理的思考力や情報活用能力

## あくまで試作問題と捉え、問題の作成方針を踏まえた指導を

——大学入学共通テストの試作問題では、「実用的な文章」を題材とした問題が示されました。それを見て、どのような力が求められていると感じましたか。

**田中** 2問が示されましたが、両方も、文章だけでなく、図表やグラフなどが複数提示され、それらを的確に理解して解く問題であることから、情報活用能力が必要だと感じました。加えて、評論・小説・古文・漢文と同様に、全体を俯瞰する力や論理的思考力、批判的思考力も求められていました。

場面設定は2問ともレポートを作成する言語活動でしたが、問題の質が異なっていました。第A問は資料が複雑なことに加え、解答に不要な情報が多数含まれていました。必要な情報を抽出する分析的思考力が求められたと言えます。一方、第B問は生徒が比較的考えやすい帰納的な構成でした。

入試本番でどちらのタイプの問題が出されるかが気になると思いますが、

この2問はあくまでも試作問題であり、「実用的な文章」を題材とする問題の作成方針と、問題として成立することを示したものと捉えています。入試本番では、5つの大問のバランスを考慮した問題の量や質になるはずですよ。

——試作問題にとらわれ過ぎず、問題の作成方針を踏まえた指導が大切になりますね。

**田中** その通りだと思います。受験指導の観点では、試験時間が10分延びて90分となり、問題構成が大問4問から大問5問に変更されることへの対応が考えどころです。配点比率を基に各大問の時間配分を考えると、配点が20点の新たな大問は10分程度で解くことになりません。しかし、試作問題は提示資料が多く、10分で解けるものではありませんでした。従来の4つの大問の配点は各50点から各45点になり、小問が各1問減ると推測されます。小問4問分の時間を単純に新たな大問に充てられるというわけではありませんが、時間配分の想定は必要でしょう。

## 非連続型テキストでも力を発揮できるように、経験を積む

——「実用的な文章」を題材とする問題の作成方針を踏まえると、どのような指導が求められると考えますか。

**田中** 「実用的な文章」を題材とする問題も、他分野と同様、全体を俯瞰する力や論理的思考力などが求められています。それらの力は日々の授業で育成していると思いますから、必要なのは、生徒自身が身につけた力を自覚し、試作問題のような場面設定の時にそれらの力が発揮できるように経験を積みこむことです。

「実用的な文章」は「評論」と似ている点もありますが、「評論」は筆者と主張が明確であるのに対し、「実用的な文章」は筆者が個人ではない場合も多く、主題とは無関係な情報も含まれます。その中から目的や条件に合った情報を抽出する力が求められます。そうした力をどんな形式の資料が出されても発揮できるように、様々な非連続型テキストを授業に取り入れるとよい



岡山県立岡山城東高校  
田中誠一郎  
たなか せいいちろう  
同校に赴任して3年目。指導教諭。教務課長。国語科。

でしょう。それは、新たな大問に対する生徒の不安感の払拭にもつながります。

また、設問には、「アドバイスする」「題名を考える」などの場面設定がある場合があります。日々の授業において、グループワークで助言し合ったり、ポスターを製作したりと、様々な言語活動に取り組ませるとよいでしょう。

——そのような指導は、具体的にはどのようにすればよいでしょうか。

**田中** 教科書には、図表やグラフなどを題材とした言語活動例が掲載されています。それらの活用は、学年内で指導の方向性をそろえる上でも有効です。生徒に育みたい資質・能力に対してふさわしい題材を取り上げることが何より重要です。

非連続型テキストの読解は、地理歴史や理科、情報、総合的な探究の時間など、様々な教科で行っていると思います。教科横断的な学びを生徒に意識させることも、新たな大問への対応に結びつくはずです。

——3年生0学期以降の指導の計画に

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

大問冒頭で示された【レポート】を俯瞰的に捉えることができているかを問う設問。【レポート】の内容や展開の特徴、不十分な点、よりよくするための改善点などを述べた意見について、ほかに示されたグラフや文章を踏まえて正誤を判断する。

問うている力

「何を伝えるためのレポートなのか」「現在のレポートはどのような内容・展開なのか」などを正確に捉える力や、それらを踏まえて、レポートの主張がより伝わりやすくなるためには何が必要かを考える力を問う。

問題作成の観点

複数の文章や資料を題材として、それらに関連づけて考察させたり、レポートなどを用いて、その内容や構成を検討・評価させたりする出題パターンを想定している。

三宅編集長解説

2025年度大学入学共通テストの国語で新設される、「実用的な文章」を題材とした大問3では、

文章や資料の「内容・展開を把握する力」や、「内容・展開を検討し、評価する力」などが求められます。3年生0学期以降、教科書や授業で扱った文章に関連する別の文章や、図表、グラフなどの資料を用いた演習を行い、多様な種類の文章や資料について、内容を正確に読み取り、適切に関連づける力を育成したいところです。

指導のポイント

- 新たなタイプの文章を題材とする大問でも、求められる力はこれまでと変わらない。
- 大問数の変更に伴う、時間配分などを想定しておく。
- 非連続型テキストの演習や試作問題にある場面設定で言語活動を行い、新たなタイプの文章でも力を発揮できるよう、経験を積ませる。

ついで教えてください。

**田中** 指導の流れはこれまでと大きく変わりません。3年次の秋までは言語活動を中心とし、大学入学共通テストの直前にマーク式問題の対策を行います。ただし、授業の内容は、コンピテンシー・ベースを意識していきます。

——授業を通じて、生徒にどのようなことを意識させていますか。

**田中** 私は生徒に、「理解は自分の言葉で、表現は相手が使う言葉で」と伝えていきます。入試で言えば、素材文にある言葉を適切に使って解答を記述するということです。相手の言葉に寄り添って表現した考えは、他者に伝わりやすいものになっているはず。そうした、日常の人間関係でも大切なことを生徒に育む授業を、これからも追求していきたいと思っています。

問4 ミズキさんの級友は、「レポート」の内容や展開について検討し、意見を交換した。「レポート」や「資料Ⅰ」～「資料Ⅴ」の内容を踏まえた意見として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つを選べ。解答番号は 4。

- ① Aさん…性別役割分業という社会的な問題について、「家事」という身近なテーマに関するアンケート結果を踏まえて論じているね。当事者意識を持って考えるべき問題だと改めて実感することができたよ。
- ② Bさん…「夫婦間で従業上の地位が異なっている」という主張については、根拠が十分でないと思う。各夫婦における従業上の地位の組合せとしてどのようなパターンが多いのか、実際に調査してみるのはどうだろう。
- ③ Cさん…家事分担の不均衡の原因を「妻の従業上の地位の違い」にだけ求めているのが気になったな。【資料Ⅱ】によると、妻が「常勤」の場合でさえ家事を均等に分担できてはいないのだから、別の原因も検討するべきだと思う。
- ④ Dさん…「性別役割分業の考え方が根強く存在している」という主張については、もう少し詳しい説明がほしい。たとえば、【資料Ⅳ】の一段落目と関連付けながら性別役割分業の考え方が形成された経緯を説明するのはどうかな。
- ⑤ Eさん…性別役割分業について、「日本特有の課題」である可能性が示唆されているよ。この点について、海外の国々における調査結果と比較しながら論じると、もっと説得力のある内容になりそうだね。

※大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

# 歴史総合

## 歴史的事象を様々な立場から捉え、 多面的・多角的に考察する力が求められる



愛知県立大府高校  
のやま・しん  
野々山 新  
同校に赴任して2年目。進  
路指導部。地理歴史科。

### 知識は中学校レベル、 歴史を読み解く「概念」が必要

—— 大学入学共通テストの試作問題を見て、どのような力が求められていると感じましたか。

**野々山** 『歴史総合』の試作問題は、大量の資料が提示され、それらを読解・比較した上で考察する問題でした。近現代の日本と世界が融合した『歴史総合』という科目の特徴を捉えた問題で、資料の作者の意図（国や立場の違い）を理解する、あるいは資料の作者以外の第三者の視点から批判的に捉えるなど、多面的・多角的な考察力がより求められていると感じました。

—— 歴史的事象を多面的・多角的に考察するとは、どういったことでしょうか。

**野々山** アヘン戦争を例に資料を考察してみると、中国側はアヘン貿易の是非が論点となる一方、イギリス側は自由貿易の原則が論点となっていることに気づくことができます。その相違は戦争の要因の1つとなりました。つまり、複数の視点に立脚して特定の事象

を捉え直すということです。そのためには、資料の特性をつかむことや、当事国と第三国、政府と民衆といった国や立場の違い、現在とは異なる時代の文脈などに注目することが大切です。

—— 時代の文脈を捉えられるようになるためには、何が重要だと考えますか。

**野々山** 時代の特徴を形づくる「概念」の理解が何より重要です。産業革命であれば、工業化から近代化がどのように進んだのか、それが社会や人々にどんな影響を与えたのかなど、国を超えた共通点を理解することです。

概念を学ぶとは、眼鏡をかけることと似ていると思います。度数や偏光率によって見え方が変わりますし、本人の意思でかける眼鏡を自由に変えられます。同様に、歴史の概念を1度理解すれば、歴史の見え方が変わりますし、問題意識に応じて異なる概念を重視して考察することもできます。試作問題を見ても、必要な知識は中学校の歴史的分野レベルで、資料を通じていかに歴史的事象を概念的に捉えて考察できかが求められています。

### グループワークで、資料を 捉える多様な視点を学ぶ

—— 生徒が歴史の概念を理解することができるよう、『歴史総合』の授業ではどのような工夫をしましたか。

**野々山** 22年度は次のような授業を行いました。まずは生徒の実態をつかみ、生徒が疑問を抱くような単元を置く。いと、その問いを解くための各授業の問いを立てました。例えば1学期は、単元の問いを「工業化の進展は、私たちの生活を豊かにしたのではなかったのか」とし、各授業の問いは「イギリスの自由貿易は豊かさを与えたのか」「植民地支配に伴う工業化は豊かさと言えるのか」などとしました。そして、生徒が各授業の問いを教科書や資料集に載っている資料などを活用しながら解く中で、自分や社会が歴史どううつながっているのかを考えられるようにしました。なお、問いは本校の生徒が疑問を持ちそうなものにし、また、教科書に掲載されている問いも活用できるとしています。

—— 『歴史総合』では教科書で扱う内容が増え、授業進度が厳しいといった声をよく聞きます。

**野々山** 確かに標準単位数の2単位では、教科書の内容を網羅して教えることは難しいでしょう。教科書を題材に概念を理解することを通して、社会的事象の歴史的な見方・考え方を学ぶという目標を明確にすれば、目標に沿って内容を精選することにつながります。その精選の考え方は、『世界史探究』や『日本史探究』でも同様です。

—— 3年生の学期以降の指導の計画について教えてください。

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

「なぜアメリカ合衆国がワシントン体制の構築を目指したのか」という疑問に対する生徒の考察と、考察を導くために必要な資料を組み合わせる問題。

問うている力

資料の趣旨を把握し、条件との整合性を踏まえて必要な資料を取捨選択する力を問う。

問題作成の観点

複数の資料を基に疑問を考察・検証するような探究活動のプロセスを意識した出題パターンを想定している。

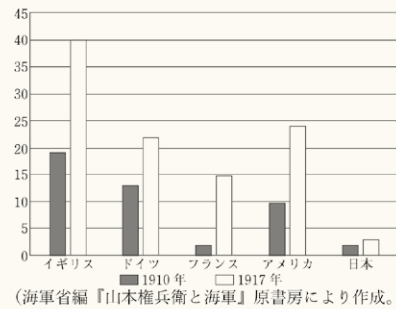
三宅編集長解説

『歴史総合』

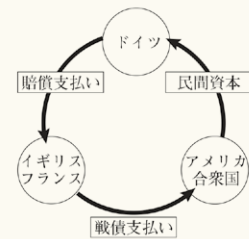
では、様々な資料を読み取る技能とともに、学習した知識と結びつけて具体と抽象を往還する力や、資料に基づいて疑問を考察・検証する力などが問われます。『歴史総合』の教科書にもたくさんの補足資料が掲載されていますが、そうした資料も活用しながら、「自由・制限」「平等・格差」など、様々な観点から多面的・多角的に考察することが重要です。

問3 下線部bに関連して、修太さんは「なぜアメリカ合衆国がワシントン体制の構築をめざしたのか」という疑問を持ち、次の資料4～6を集めて考察を行った。修太さんが作成した下の考察文X・Yと、その考察を導くために必要な資料の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

資料4 列強諸国の戦艦保有隻数



資料5 ドイツの戦後処理



資料6 平和に関する布告 (1917年11月8日)

**著作権の都合により非掲載**

考察文

X 極東地域における社会主義勢力の拡大に加え、中国における日本の勢力拡大にも警戒する必要があったから。

Y 自国の財政のためにヨーロッパの復興支援を行おうとする一方で、第一次世界大戦期からの軍事費の拡大が問題になっていたから。

- ① X－資料4と5      ② X－資料4と6      ③ X－資料5と6
- ④ Y－資料4と5      ⑤ Y－資料4と6      ⑥ Y－資料5と6

\*大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

指導のポイント

- 求められるのは、時代や社会の概念的な理解。それができていれば、細かな知識に依存せずに、歴史的事象を考察することができる。
- 資料を多面的・多角的に捉えられるようになるためには、グループワークが効果的。
- 探究科目に接続して、複数の資料を考察する学習を継続的に実施。

野々山 『世界史探究』の試作問題を見ると、習得すべき知識は『歴史総合』より大きく増えるものの、『歴史総合』と同様、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を問う問題が中心でした。2年生の『世界史探究』の授業は、基本的に『歴史総合』と同じ授業スタイルを採っています。『歴史総合』で学んだ概念を活用する問いを設けることで、『歴史総合』の復習も行っています。

—— 授業を通じて、生徒にどのような力を育みたいと考えていますか。

野々山 『歴史総合』は、歴史教育を大きく転換させる科目です。現代的な諸課題を理解して社会に関心を持ち、多面的・多角的な考察力を身につけ、社会をよりよくすることにつながるような学びを、生徒に提供し続けていきたいと思っています。

# 情報 I

## 求められるのは、情報を活用する力。 情報を読み取り、考察する経験を重ねる



兵庫県私立雲雀丘学園中学校・高校  
林 宏樹  
はやし・ひろき  
同校に赴任して2年目。2学年担任。  
数学科、情報科、探究科。

知識の習得は最低限で、  
活用力と読解力の育成が重要

—— 大学入学共通テストの試作問題を見て、どのような力が求められていると感じましたか。

林 『情報I』の試作問題を見ると、知識の習得は最低限でよいけれども、教科書の内容を教えるだけでは不十分で、読解力や考察力の育成が必要だと感じました。2次元コードを題材にした問題がありましたが、2次元コードは教科書で扱われていません。情報技術は日々進化しているとともに、その活用領域は世の中で広がり続けていて、入試で扱われる題材を推測するのは不可能です。重要なのは情報技術の活用力と、問題文を正確に読解する力を育成することだと考えています。

—— 「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」のうち、課題に感じている分野はありますか。

林 得点の差がつく分野は、多くの生徒が高校から学び始める「プログラミング」「データの活用」でしょう。

「プログラミング」は多くの教師が指導に戸惑っている分野ですが、『情報I』で求められるのは、プログラムを一から作成する技能ではなく、プログラムを読み解く力です。プログラムは3構造（順次・条件分岐・繰り返し）を理解し、順序立てて考える論理的思考力やフローチャートに表す構成力があれば、入試問題に十分対応できると考えています。

「データの活用」は数学の「データの分析」と混同されがちですが、試作問題の「データの活用」では、計算問題は出されていません。問われるのは、読み取った数値をどの場面でどう活用できるかを考える力です。例えば、相関係数が同じでも、散布図が異なれば分析結果が違ふといったことを理解し、データを読み取る力が挙げられます（図）。そうした力があれば、調査データをこのみにせず、数値の意味を考えられるようになるでしょう。

演習の中で試行錯誤をさせ、  
問題への対応力を鍛える

—— 『情報I』の授業ではどのような工夫をしましたか。

林 私は、教科書の掲載順とは異なる順序で各分野を取り上げました。具体的には、1学期は「情報社会の問題解決」と「データの活用」を学習し、統計ポスター製作の演習を行いました。2学期は「プログラミング」「情報通信ネットワーク」、3学期は「コミュニケーションと情報デザイン」を学習し、1学期に製作した統計ポスターを、情報デザインの観点で再度製作させました。

—— 同じ演習内容にすることで、生徒に試行錯誤をさせたのですか。

林 どの演習においても、生徒が課題を実行した後に私がすぐに解説するのはなく、生徒自身が結果を考察し、改善点を考えて再び実行する試行錯誤を行う流れにしています。プログラミングでもデータの活用でも、問題発見と修正の繰り返しでよりよいものができます。生徒にもそれを経験させるこ

とで、考察力と活用力を鍛えています。演習は生徒同士で試行錯誤させ、私は極力かわらないようにしています。また、演習の解説では、間違えた生徒にどう考えたのかを聞き、なぜ間違えたのかについてやり取りします。正解した生徒も、その対話を聞くことで、疑念的に試行錯誤ができるからです。

—— 『情報I』を1年次に履修した学校が多いですが、今後の指導をどう進めようと考えていますか。

林 本校では、3年次に情報演習を行う科目を設置しています。それに向けて、2年次の後半は、毎週水曜日の朝学習の10分間に、薄い問題集に取り組みさせています。3年生0学期は、国語や数学、英語の基礎力の完成に向けた学習が重要な時期です。『情報I』の学習には負荷をかけずに、用語だけは思い出しおいてほしいと思い、10分間の学習に取り組みさせています。

3年次の情報演習では、プログラミングの演習を中心に行う予定です。最初に述べた通り、知識は最低限で、重要なのは試行錯誤の経験を通じて身に

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

複数の散布図と相関係数から、データの関係性や傾向を読み取る問題。

問うている力

散布図を適切に読み取る力と、相関係数の意味を理解する力を問う。

問題作成の観点

データを活用して、問題を解決する場面や、データから課題や事象の傾向を導き出す場面を設定して出題することを想定している。箱ひげ図や散布図、回帰直線の知識を活用して何らかの結論を導き出す力を測定する。

三宅編集長解説

『情報Ⅰ』の試作問題の

概要には、「考察」という言葉が多く見られました。実際、試作問題は、知識の有無を直接問う問題ではなく、知識を使って考察させる問題が出されています。多くの学校では1年次に『情報Ⅰ』を履修済みですが、今後は、教科書に記載されている知識の習得と並行して、問題解決の場面を設定し、情報に関する知識を活用・実践する問題に接する機会をつくることが重要です。

問2 データシートを分析しやすい状態にした後、タロウさんとハナコさんは、各データ同士の関係性を見出そうとしている。以下の二人の会話文を読み、その後に続く問い(a・b)に答えなさい。

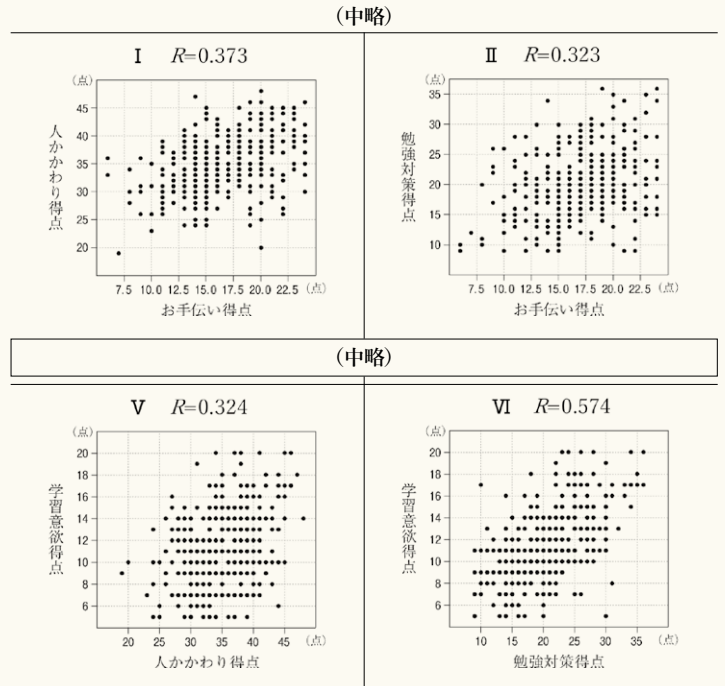


図1 各得点の散布図と相関係数(R)

b. 下線部について、図1から言えることとして正しいものを、以下の解答群の中から二つ選べ。

オ 力 (順不同)

- ① 「お手伝い得点」の最大値は、23である。
- ② IのRは、IIIのRの約2倍であるため、Iの相関の強さはIIIの約2倍である。
- ③ 「人かかわり得点」の平均値は、25である。
- ④ IIとVの相関の強さはほぼ同じである。

※大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

指導のポイント

- 大学入学共通テストの『情報Ⅰ』に向けての知識は、問題集で復習。
- 問題文を的確に読解し、与えられた情報を活用して問題を解く対応力を身につけさせる。
- 生徒同士で演習に取り組ませ、生徒に試行錯誤をさせて、読解力や考察力を鍛える。

つける活用力と読解力です。1年次に課した演習にも再度取り組ませて、試行錯誤をさせたいと考えています。また、問題文を読み飛ばす生徒が多いので、問題文に書かれている解答のヒントを読み取り、与えられた情報を活用する意識も持たせたいと思っています。

――授業を通じて、生徒にどのような力を育みたいと考えていますか。

林 何事も間違えたり、うまくいかなかったりすることがあります。その時に大切なのは、諦めず、問題を見いだし、その解決策を考えて実行し、うまくいかなければ別の策を考えるなど、試行錯誤しながら目標に向けて走り続ける力です。たとえ目標に到達できなくても、試行錯誤が自分の成長につながる実感できるような授業を、これからも目指していきます。

# 2025年度大学入試に向けた進路指導のポイント

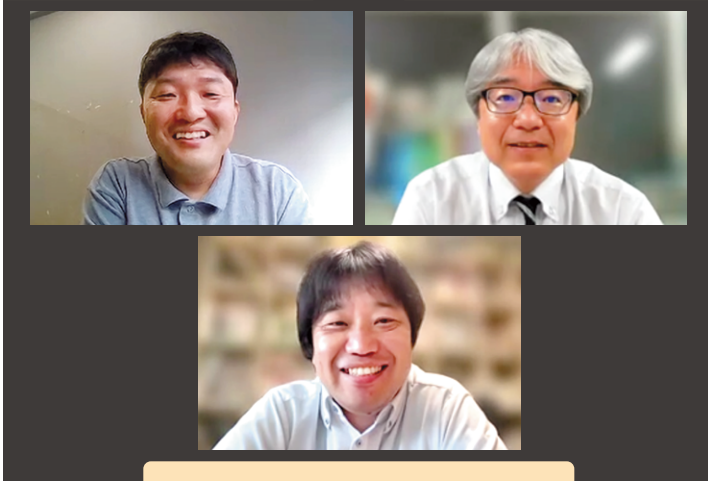
大学入試に向けた指導・支援におけるターニング・ポイントとも言える「3年生0学期」を迎えるにあたり、教師はどのような準備をすればよいのか。また、25年度大学入試に向き合うことを通じて、生徒にはどんな成長を遂げることが望まれるのか。進路指導を長年担当してきた3人の教師に話を聞いた。

わかさ  
福井県立若狭高校  
キャリアサポートセンター(\*) 室長  
こさかやすゆき  
**小坂康之**

同校に赴任して10年目。水産科。  
学校概要は16ページ

北海道札幌北高校  
進路指導部長  
たかくわともや  
**高桑知哉**

同校に赴任して3年目。理科(化学、物理)。  
学校概要は16ページ



奈良県・私立西大和学園中学校・高校  
高校1年生担任  
なしだ たかし  
**梨子田 喬**

同校に赴任して1年目。地歴公民科(世界史)。  
学校概要は17ページ

## 25年度大学入試に向けた取り組みと必要な視点

どの教科においても  
読解力がますます重要に

— 25年度入試に向けた指導や支援において、今後どのような視点が必要でしょうか。

**梨子田** 大学入学共通テストの試作問題からも見て取れるように、大学入試はコンピュータシー・ベースに変わっています。一方、毎年度、大学入学共通テスト後には、「覚えた内容を出してほしい」「世界史なのに問題文が長くてこれでは現代文の問題ではない

か」といった受験生のつぶやきがSNS上で散見されます。そうした不満が上がるのは、学校現場の授業がコンテンツの習得に偏っているからではないでしょうか。25年度入試に向けても、その差を埋めることが求められ、教師も生徒もコンテンツ・ベースの授業観から脱却すべきだと思っています。

**高桑** その通りだと思います。特に大学入学共通テストが難化している中、あらゆる教科・科目において読解力が求められていると感じます。授業などで生徒同士で議論する場を設けて、思考力や表現力とともに、知識を再構築する力を鍛えることも必要だと思います。  
**梨子田** 読解力と知識の再構築力を鍛えるには、改めて読書が注目されるべきでしょう。例えば、探究学習の過程で、あるいは志望理由書の作成準備の中で、生徒に「〇〇とは何か」「〇〇は

\* 生涯にわたる学習観や職業観を身につけることを支援するという意味で、いわゆる進路指導部を「キャリアサポートセンター」としている。



## 25年度大学入試に向けた指導・支援のポイント

### 25年度大学入試に向けた取り組みと必要な視点

- ✓ コンピテンシー・ベースの大学入試に対応する意識変革
- ✓ 目的意識を持った読書活動により、読解力や知識の再構築力の向上を図る
- ✓ 『情報Ⅰ』の必要性を、教師・生徒に共有する

### 3年生0学期以降の指導・支援のポイント

- ✓ 志望理由書の作成指導を開始し、志望校への思いを確かなものにさせる
- ✓ 志望分野を決定していくことで、受験校の選択肢を広げる
- ✓ 種々のデータに基づいて、生徒が持っている資質・能力を多面的に把握する
- ✓ 学年団で伸ばしたい力を共有し、その育成に教科横断で取り組む

### 25年度大学入試に向けた学習や進路選択を通して身につけてほしいこと

- ✓ 主体的な進路選択を通じて育まれる、自分の人生を切り拓く力
- ✓ 自分の学力を客観的に把握し、粘り強く自己調整する力

なぜか」等の目的意識を持って書籍を読ませ、その内容をアウトプットさせるなど、新学習指導要領の文脈で指導することが大切です。

**小坂** やはり日々の授業が重要であり、授業をコンピテンシー・ベースにするためには、組織的に授業力を高める工夫が必要です。本校は授業研究会や互見授業を行い、指導のノウハウを学び合っています。その過程での、生徒にどのような資質・能力を身につけさせたいかなどを教師間で語り合うことが、目標の共有と、指導の方向性をそろえることにつながっています。

#### 『情報Ⅰ』を自分事として 生徒が学べるように

— 大学入学共通テストに向けた指導や支援はどのように考えていますか。

**梨子田** 『情報Ⅰ』がポイントの1つになると考えています。私は元公立高校教師で、昨年度は県教育委員会に在籍していました。公立・私立・行政・都市部・地方部と様々な立場で学校現場を見てきましたが、地域によって情報科教師の配置に差があり、学校間で指導の差が生じていると思いました。

**小坂** 福井県では、現職の教師に情報科の教員免許を取得させる方針を採って

います。また本校では、保護者の不安を解消するため、『情報Ⅰ』を含めた入試全般の指導方針を保護者会で説明するなど、情報共有に努めています。

**高桑** 本校では、志望者数の多い北海道大学が、大学入学共通テストの『情報Ⅰ』の受験は課すが、配点はしない方針としたため、生徒の『情報Ⅰ』に対する学習意欲への影響を懸念しています。『情報Ⅰ』は、Aやデータサイエンスに関連する科目であり、文理にかかわらず必要な科目です。「大学や社会で役に立つ学びだから頑張ろう」と言って、生徒への動機づけを図っています。また、第1志望が北海道大学でも、大学入学共通テストの結果次第で他大学に受験する可能性もあります。その点でも対策は必須とし、3年次の夏季休業中に『情報Ⅰ』の講習を行う予定です。

**梨子田** 受験期に「情報が必要だから勉強しなさい」といきなり言っても、生徒には響かないでしょう。1・2年次の『情報Ⅰ』の授業で、自分の生活に根差したことを学ぶ科目だと実感し、自分事として捉えられるようにすることが大切です。生徒が「せっかく学んできたのだから、受験科目としても上手に活用しよう」と思えるような流れを3年生0学期までにつくれればよいのではないかと思います。

『情報Ⅰ』は大学や社会で必要な力をつける科目として、  
教科と連携して指導しています。

高桑



## 北海道札幌北高校

◎設立 1902 (明治 35) 年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約 320 人  
◎2022年度卒業生進路実績 国公立大は、旭川医科大、小樽商科大、北海道教育大、北海道大、東北大、千葉大、東京工業大、東京大、京都大、大阪大、神戸大、公立千歳科学技術大、札幌医科大などに 224 人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ 238 人が合格。

### 3年生0学期以降の 指導・支援の ポイント

#### 志望理由書の作成を通じて、 選抜方法の適性を見取る

— 3年生0学期以降は、どのような  
進路指導が求められるでしょうか。

**小坂** 本校では2年次後半までに、大  
学で学びたい研究分野を決めるよう、  
指導しています。学びたい研究分野と  
いう視点で進路を考えれば、受験校の  
選択肢は広がりますし、第1志望校で  
なくても、入学した大学で志望分野が  
学べれば、満足度の高い大学生活を送  
れるでしょう。反対に、難易度だけで  
志望校を決めてしまうと、つらい状況  
に直面した時に、安易に志望校を変更  
しがちです。「探究学習ではどの分野  
に興味を持った?」「○○を頑張ってい  
たね」などと生徒と対話し、生徒が自  
ら適性や関心を見いだせる支援を心が  
けています。

3年生0学期は、志望理由書の作成  
指導を始めるよいタイミングだと思っ  
ます。志望理由書の作成を通じて、自

分が何を、なぜ学びたいのかを整理す  
ることは、志望校への思いを確かなも  
のとするにもつながるでしょう。

そこで小論文の指導も行えば、自分が総  
合型選抜と一般選抜のどちらに向いて  
いるのか、生徒が自ら気づくはずですよ。

**梨子田** 私は、総合型選抜と一般選抜  
は「一筋」にあると、生徒や保護者に  
伝えてきました。総合型選抜でも知識・  
技能をおろそかにしたら太刀打ちでき  
ませんし、一般選抜でも思考力・判断  
力・表現力が求められるからです。3  
年生0学期の指導としては、例えば、  
「関連づける力」など、生徒に身につ  
けさせたい資質・能力を1つ設定し、  
その育成を学年団・全教科で取り組む  
といった指導をお勧めします。教科横  
断で行えば、生徒の資質・能力の学年  
全体での底上げにつながります。

#### 様々なデータを活用して 多面的に生徒を把握する

— 総合型選抜の募集枠が年々拡大して  
います。進路指導に変化はありますか。

**小坂** 本校は、生徒間の学力差が大き  
いため、一人ひとりの適性や志望を踏  
まえた指導が欠かせません。その際に  
活用するのがデータです。若手教師も  
含めた学年団全員で、模擬試験の結果

自分が主体的になれる「動詞」を見つけることは、  
何事も諦めずに、道を切り拓く力につながると考えます。

小坂



## 福井県立若狭高校

◎設立 1894 (明治 27) 年 ◎形態 全日制・定時制/普通科、文理探究科、海洋科学科/共学 ◎生徒数 (全  
日制) 1学年約 270 人 ◎2022年度卒業生進路実績 (全日制) 国公立大は、北海道大、筑波大、横浜国立大、  
富山大、金沢大、福井大、京都大、大阪教育大、大阪大、神戸大、奈良教育大、和歌山大、鳥取大、徳島大、  
香川大、愛媛大などに 81 人が合格。私立大は、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ 305 人が合格。



進路選択と入試の壁を乗り越える経験を通じて、  
自分の人生をハンドリングできる力を身につけてほしい。

梨子田

**奈良県・私立西大和学園中学校・高校**

◎設立 1986 (昭和 61) 年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約 340 人  
◎2022 年度卒業生進路実績 国公立大は、北海道大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大などに 170 人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ 180 人が合格。

や志望校の出題傾向など、様々なデータを分析し、生徒が持っている資質・能力を基に、総合型選抜と一般選抜のどちらを勧めるかを検討します。

**高桑** 本校も、「校内実力模試」と外部の模擬試験のデータを用いて志望校検討会を行っています。これまで蓄積されてきたデータを基に、生徒一人ひとりについて、適性のある選抜方式や合格可能性、支援内容を各学年で検討し、それを活用して3年次の進路支援を行います。また、2年次に、東京大学・京都大学志望者と医学科志望者でそれぞれチームを結成し、勉強会等を通じて最後まで諦めない意志を醸成しています。

**小坂** 本校が重視しているのは2年次の2月の模擬試験の結果です。それを基に入試本番までの学力の伸びを推測し、総合型選抜や学校推薦型選抜を視野に入れるかを検討します。そして科目担当者による会議では、各科目担当者・担任・キャリアサポートセンター・教務部が、各学年での学習状況や模擬試験の結果、志望校を共有し、生徒への声かけの内容も相談します。

生徒の志望校を検討するのは大変ですが、2年次の後半に今後の指導の見通しを立て、それを生徒と共有しておくことで、3年次の指導・支援をスムーズに進めることができます。

**25年度大学入試に向けた  
学習や進路選択を通して  
身につけてほしいこと**

**進路選択を通じて育みたい、  
自分の人生を切り拓く力**

— 大学入試は、生徒が成長する重要な機会でもあります。どのような力身につけてほしいと考えていますか。

**小坂** 本校では、「自分が主体的になれる『動詞』を見つけよう」と、生徒に呼びかけています。例えば、「私は〇〇をしている時に心が動かされる」「〇〇している時が充実している」といった動詞です。多くの人と出会い、対話する中で、自分が価値を感じることを見つけ、その実現に向けて壁を乗り越え、努力を重ねる。そうした経験を通じて、何事も諦めずに、道を切り拓く力をつけてほしいと願っています。

**梨子田** やや抽象的になりますが、生徒には主体的に進路選択ができる力を身につけてほしいと思っています。それが自分の人生を自分でハンドリングしようとする姿勢につながると考えるからです。生徒が主体的に進路選択を

するために、大学入試の前段階として、生徒主体で行う特別活動が鍵になると考えています。本校の生徒は学校行事に熱心に取り組み、運営も生徒が行います。そこで培われた情熱や集団の力が大学入試に向けられ、進学実績を上げています。そうした学びの基盤づくりは、集団で学ぶ学校だからこそできることであり、学校の価値だと思います。

**高桑** 本校の生徒も学校行事に全力で取り組み、特に学校祭への熱意はこちらが驚くほどです。達成感や感動体験、時には生徒同士の衝突も含めて、総合的な人間力の醸成につながっています。それは大学入試だけでなく、大学や社会において生きる力だと思っています。

**小坂** 授業や特別活動などに加えて、評価も生徒主体で行うことが重要ではないでしょうか。自己評価を通じて自己分析能力やメタ認知能力が高まれば、模擬試験の振り返りなども、生徒自身が確に行えるようになるでしょう。合格可能性の判定を見て一喜一憂するのではなく、自分はどこができていて、どこが足りないのかを客観的に把握し、粘り強く自己調整していく力も、大学入試に向けた学習の中で育めます。25年度入試もそうした指導・支援の機会にしていきたいと思っています。

主体的・  
対話的で  
深い学び

授業実践

# 音楽

音楽的な見方・考え方を働かせ、  
自分の思いや考えを  
表現する力を高める



はほろ  
北海道羽幌高校

小山知倫 こやま・ともり



同校に赴任して1年目。  
マネジメントグループ。芸術科(音楽)。

学校概要

◎設立 1950(昭和25)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約50人

◎2022年度卒業生進路実績 国公立大は、小樽商科大、帯広畜産大、北海道教育大、北海道大、公立はこだて未来大、名寄市立大に6人が合格。私立大は、札幌学院大、札幌国際大、星槎道都大、北海学園大、北海道医療大、北海道科学大、東京農業大などに延べ18人が合格。短大・専門学校進学14人。就職12人。

私が  
目指している  
授業

音楽に対して感じたよさや美しさについて、自分なりの考えを持ち、それを表現できる資質・能力を生徒に身につけさせたいと考えています。そして、表現(歌唱・器楽・創作)や鑑賞といった幅広い音楽活動を通じて、自分の思いや考えを表現できる力を高めていくことで、生活や社会をよりよくしていこうとする実践力も育みたいと思っています。

生徒は、歌唱や器楽などの技術の習得が「音楽『を』学ぶ」ことだと捉えがちです。授業ではそれだけでなく、音楽にかかわる課題に個人やグループで取り組む中で、自分自身の考えや他者の考えを尊重することなどを「音楽『から』学ぶ」視点が重要であることを、生徒に示しています。

# 授業レポート

## 本時の概要

【対象】 1年生 【教科・科目】 芸術・音楽Ⅰ

【題材(\*1)】 歌唱「歌よ、愛を語れ！」

【題材の目標】 様々な国の「ラブソング」の曲想、楽曲の構造や歌詞、言葉の特性と曲種に応じた発声とのかかわりについて理解を深め、主体的・協働的に歌唱活動に取り組む。

【授業時数】 全6時間のうちの1時間目

ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、  
授業のダイジェストを動画で紹介!



題材(単元)の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



お  
勧  
め  
の  
分  
享

管  
理  
職

教  
務  
担  
当

進  
路  
担  
当

担  
任

## 1 題材の中核となる楽曲を聴く ⌚ 5分間



4月に、J-POPを教材として曲の構成や歌詞に込められた思いを表現する歌唱方法について学んだことを振り返った後、題材の中核となる『Caro mio ben』を鑑賞。歌が作られた時代と国、歌詞の内容を生徒に推測させると、生徒から「明治時代のヨーロッパ?」「スペイン語?」「平和!」などの声が上がった。

## 2 題材と本時の課題を確認 ⌚ 10分間



小山先生は、『Caro mio ben』が18世紀のイタリアで作られたラブソングであり、題材の課題は「人はなぜ愛を歌うのか、どう愛を表現するのか」の考察であると説明。「歌詞の内容と楽曲の特徴、歌手の歌い方から、ラブソングらしさとは何かを考えよう」と、本時の課題に取り組む上での視点を伝えた。

## 3 日本とアメリカのラブソングを考察 ⌚ 25分間



日本とアメリカのラブソングを3曲ずつ、それぞれサビの歌詞を読んでから鑑賞。メロディーや歌い方、歌詞の内容とのつながりに着目し、表現しているのは喜びか、失恋かなど、各曲の「愛の方向性」を考えた。生徒はグループで話し合い、「失恋した自分を納得させようと、つぶやくように歌っている」などと考察した。

## 4 5人の歌手の表現を聴き比べ ⌚ 10分間



5人の歌手が歌う同じ楽曲を聴き、「歌い方や伴奏の特徴」「グッときたポイント」をワークシートに記入した。次時は最終発表会でグループで歌う曲を選ぶ予定だが、その際、選んだ曲をどのように表現を工夫して歌うのかなどを論理的に語るようにするため、楽曲を聴き比べ、表現の特徴を考察させた。

\* 1 「音楽」では、学習指導要領の内容を構成するまとまりとして、「単元」ではなく「題材」を用いることが一般的。

発問・課題設定の観点



楽曲の特徴を  
切り口にした課題で、音楽的な  
見方・考え方を働かせる

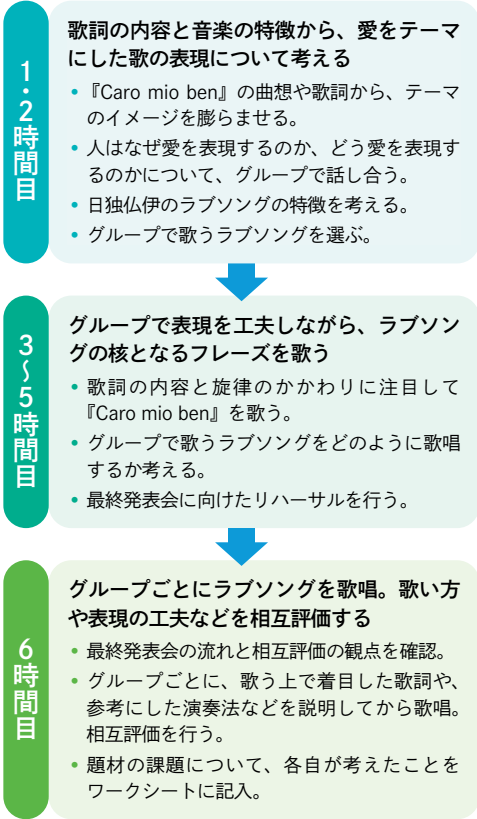
生徒が音楽的な見方・考え方を働かせられるような課題設定を心がけています(図1)。本時では、『Caro mio ben』などの楽曲を聴き、「ラブソングらしさ」を考察することを課題としました。曲調などの楽曲の要素を学んだり、歌詞の理解とそれに即した効果的な歌唱法を考えたりすること以外にも、「ラブソングはなぜ古今東西に存在するのか」「国こ

とにラブソングの特徴はあるのか」といった問いを通じて、異文化理解や歴史的背景も考察させました。

本校には、考えることが苦手な生徒や、自分の考えを言語化することに不慣れた生徒が少なくありません。「なぜその歌い方がよいと思うのか」など問いかけ、楽曲について自分なりに考えて、論理的に説明する場を必ず設けています。

音楽と生活・社会・地域との関係を意識させようと、指導計画にはサウンドロゴ(\*2)やBGMを鑑賞して特徴や効果について考えたり、地域の魅力を伝える「ご当地演歌」を創作したりする題材もあります。

図1 題材「歌よ、愛を語れ!」の展開



※学校資料を基に編集部で作成。

学習評価の工夫



生徒の鑑賞や  
表現活動の充実に向け、  
形成的評価を丁寧に行う

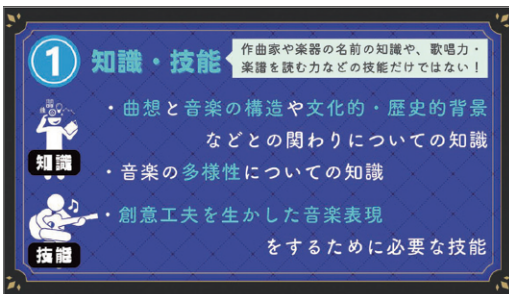
本校で育成を目指す資質・能力を踏まえて設定した各題材の目標、及び学習評価の観点は、年度当初に配布する「学習ガイドブック」(コラム参照)に掲載し、生徒に伝えています。学習評価の観点を示す際には、学習指導要領を参考にするとともに、分かりやすい表現を心がけています。そして、習得してほしいのは、「作曲家や楽器の名前などの知識や、歌唱力・楽譜を読む力などの技能だけではない!」などと、科目で育成を目指す資質・能力とかわかる観点を示しています(図2)。

どの題材でも必ず中盤の授業でグループワークを取り入れています。活動中、私は机間指導をしながら、一人ひとりの発言や取り組み、ワークシートの記入状況を観察し、生徒が自分の考えを論理的に表現できるようにアドバイスしています。そこで見取りは形成的評価であり、成績

には反映していません。あくまで生徒の鑑賞や表現活動を充実させるための支援と位置づけています。

歌唱や楽器の発表会などの活動は必ず私が撮影し、それを生徒の振り返りの材料として提供してきましたが、今後はこまめにチェックポイントを設け、生徒自身が撮影した動画を提出させることを検討中です。そうすることで、私が授業中に十分に見取れなかった生徒の学習状況や、授業が進む過程での生徒の変容を把握できるようになります。生徒自身が記録することで、自分の成長を実感したり、課題の発見につながったりすることを期待しています。

図2 年度始めに生徒に示した評価の観点(抜粋)



※学校資料を抜粋して掲載。

\* 2 効果音やメロディーを使い、企業名や商品などを宣伝するための楽曲。



## 「学習ガイドブック」で学習意欲を引き出す



元々、教師用の指導用資料として開発していたものを、生徒向けの「学習ガイドブック」として改訂した。資料やスライドの作り方は、デザイン制作の書籍を読んで学んだ。

生徒が学習に見通しを持ち、主体的に授業に取り組めるよう、授業の手引きである「学習ガイドブック」を年度始めに配布しています。

### ●音楽の授業の全体像を伝える

「学習ガイドブック」には、「『音楽Ⅰ』の位置づけ」「身につけられる力」「評価方法」などの説明と、全題材のシラバスを掲載。音楽を学ぶ意義と魅力が伝わるような1冊にしました。「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の各分野の授業の流れと、題材間の関係図を示し、何が学べるのか、何が身につくのかを見通せるような工夫もしています。

### ●題材のシラバスに、学習内容の記入欄を用意

「取り組んだ学習活動」「学んだこと・印象に残っていること（到達度を5段階で自己評価）」「今後生かしたい場面」の記入欄を題材のシラバスに設け、各題材の最後の授業で記入させています。音楽を学んだ軌跡として、卒業後も手元に置いてもらうことが理想です。

### ●題材の学習内容と他教科との関連も示す

題材のシラバスには、他教科との関連も示しています。外国語の歌詞を扱う題材は英語、リズムやビートについて学ぶ題材は体育、音楽の歴史は地理歴史など、他教科とのつながりを意識して学ぶことで、生徒の興味・関心が教科を横断して広がっていくことを期待しています。

### ●分かりやすさとワクワク感を両立するデザインに

強調したい点は目立つ書体で大きな文字にするなど、伝えたいことがぱっと見て分かるデザインを心がけています。Canva（\*3）を利用してイラストやポップな見出しを置き、授業へのワクワク感も演出しています。授業で使うスライドなども、同様の点を意識して作成しています。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

### 成果と展望

音楽を通じて、  
生徒が社会に目を向ける  
機会をもっとつくりたい



生徒を対象とした授業評価のアンケートの結果を見ると、「説明や指示が的確で分かりやすい」「質問に丁寧に答えてくれる」「ICTで学びの効率化が図られている」などの項目の肯定率が9割を超えており、生徒が授業を十分理解してくれていると捉えています。「感性」だけではなく、論理・分析・言語化といった「思考」を重視する私の授業を、「高校生ならではの学習活動」だと表現した生徒もいました。

今後は、音楽と生活や社会とのかわりを意識する場面をより積極的に設けたり、生徒が探究した音楽活動を地域に発信・還元したりする授業づくりをすることが目標です。また、各題材の「問い」に今以上のつながりを持たせ、1年間を通して大きな探究活動になるような学びのデザインも模索していきます。

\*3 世界中のすべての人が自由にデザインを作成し、公開できることを目指すオンラインデザイン、及びビジュアルコミュニケーションのプラットフォーム。  
<https://www.canva.com/>

主体的・  
対話的で  
深い学び

授業実践

# 生物

概念的な知識の理解を重視し、  
「教え過ぎない授業」に



東京都・私立  
三田国際学園中学校・高校

大野智久 おおの・ともひさ



同校に赴任して5年目。学習進路指導部主任。  
高校1学年担任。理科(生物)。

学校概要

◎設立 1902(明治35)年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約200人

◎2022年度卒業生進路実績 国公立大は、北海道大、名古屋大、京都大、東京都立大などに14人が合格、私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに、延べ532人が合格。海外大は、アメリカ・University of California, Berkeleyなどに、延べ60人が合格。

私が  
目指している  
授業

私は教育のビジョンとして、「生きづらさを減らし、人生の喜びを増やすこと」を掲げています。そのため授業では、生徒が学問的な楽しさを見だし、探究への意欲を高められるような工夫をしています。生徒自身で学びをデザインし、学び続ける力は、探究の充実だけでなく、人生を豊かにして喜びを増やすことにもつながると考えています。一方、生きづらさを減らす上では、人に頼ることが大切です。授業では多様性を重視し、相互支援の関係をつくるようにしています。生物の特徴は進化にあり、そこから派生する多様性こそが生命の本質だと考えます。多様性を受け入れ、他者の考え方や生き方を自分の人生に生かす力も、身につけてほしいと思っています。



# 授業レポート

## 本時の概要

**[対象]** 1年生 **[教科・科目]** 理科・生物基礎  
**[単元]** 生物の特徴・生物とエネルギー  
**[単元目標]** 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。光合成や呼吸などの代謝とATPを関連づけて理解する  
**[授業時数]** 全8時間のうちの2・3時間目  
※台風による休校の影響で1時間にまとめた形で実施



単元の指導計画は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>または右の2次元コードからアクセスしてください。



ウェブサイトVIEWnext ONLINEでは、授業のダイジェストを動画で紹介!



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

## 1 振り返りへのフィードバック 5分間



大野先生は、前時の授業の生徒の振り返りの中にあつた、「宇宙に放出された熱エネルギーは、また使えるのか」という疑問を取り上げ、それに関連する最新のエネルギー再生技術を紹介しながら回答した。生徒の興味・関心を学びにつなげていくために、大野先生は毎授業、生徒の振り返りを共有している。

## 2 講義、演示実験 15分間



大野先生は、「お酒の強さは何で決まる？」などと、身近なものに関する質問を通じて、酵素の働きや特徴について説明。次時に生徒が取り組む酵素反応の演示実験を行い、肝臓片に含まれるカタラーゼが過酸化水素を水と酸素に分解する様子を見せた。試験管からあふれる泡に、生徒の視線が集まった。

## 3 実験のグループづくり 5分間



生徒は、次時に行う実験の3～4人組のグループを自分たちで編成することを希望。大野先生は、生徒の当日の様子などから、「グループに入れなかった生徒が1人でも出たらランダムにグループを組む」という条件を示した上で、生徒の意見を尊重した。生徒は、当日の欠席者を考慮しながらグループを完成させた。

## 4 実験計画の立案 20分間



「Think and Quest」(\*)のワークで示されている4つの仮説の検証方法を各グループで検討。その後、自分たちで独自の仮説と実験計画を立てた。実験計画書は次時の実験前までに、画像データで提出することを確認し、授業は終了した。なお、実験計画書は総括的評価の材料としている。

\*Think and Questは、株式会社ラウンズが提供する、普段の授業で「対話的な学び」が実現し、活用できる知識・スキルの習得と、思考力・判断力・表現力を育成する「探究学習用」教材。

発問・課題設定の観点



用語を網羅せず、「概念的知識」の獲得を重視

授業では、個別・具体的な「事実的知識」を網羅的に教えるのではなく、本質・抽象的な「概念的知識」を生徒が理解することを重視しています。本時でも、酵素や触媒など、生物の用語がいくつも登場しましたが、それらの用語の根本にある概念を理解できるよう、例えば、酵素の働きの本質的な部分のみを解説しま

図1 本単元の指導計画(抜粋)

1	イントロダクション 生物とエネルギー	生物とエネルギーに関する基本事項を理解する。
2	酵素の働き	酵素の働きに関する基本事項を理解する。
3	酵素の働きに関する 実験1	知識を活用し、他者と協働して酵素の働きに関する仮説・検証計画を立案する。
4	酵素の働きに関する 実験2	「探究のサイクル」を意識して、自分たちで計画した実験を実施する。
5	酵素の働きに関する 実験3	各自で状況を判断し、追加実験やレポートのまとめなど、必要な活動を行う。
6	光合成、日常生活と エネルギー	知識を活用し、他者と協働して光合成に関する仮説検証のための実験を立案する。
7	これまでのまとめ	各自の課題を主体的・対話的な学習により解決する。
8	探究活動	知識を活用し、探究の起点となる「問い」をつくる。

※学校資料を基に編集部で作成。

した。概念が理解できれば、実験計画を立てたり、課題に取り組んだりする中で出てくる不明点を、生徒は自ら調べて解決しようとしています。用語解説をしないので、講義は短時間で済みます。本単元では、全8時間のうち30分程度です。2学期からは、授業で提示したスライドに解説の音声をつけた動画を作成して授業後に配信し、生徒がいつでも視聴できるようにしました。今後は、その動画を授業前に配信し、講義の時間のさらなる短縮を考えています。観察・実験が生徒にとって探究的な活動になるよう、授業設計も工夫しています。結果が分かっている実験ではなく、提示された仮説を証明する実験をさせたり、自ら仮説を立てて検証方法を考えさせたりしています(図1)。その際、「問い・仮説↓実験↓結果↓考察・新たな問い」のプロセスを常に意識させるようにしています。目的やプロセスを意識させることは、探究の質を高める上で重要だからです。

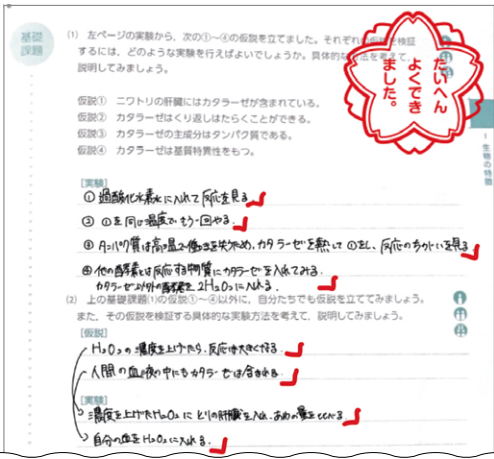
学習評価の工夫



形成的評価を日常的に行い、内発的動機づけにつなげる

総括的評価は、生徒が書いた「Think and Quest」のワークシート(図2)を3段階で評価して行っています。評価基準は、Aが「期限内提出で、内容に不足なし」、Bが「A評価のいずれかが不足」、Cが「提出期限過ぎ、提出、内容に不足あり」です。教師や生徒の負担にならないよう、また、頑張れば誰でもAが取れるよう、評価項目や評価基準は細

図2 「Think and Quest」のワークシート(抜粋)



※学校資料を抜粋して掲載。

かく設定していません。成果物の質を高めるために、評価基準を上げ過ぎないことにも留意しています。生徒はハードルを超えようと頑張りますが、「楽しいから学ぶ」といった、純粋な学習意欲が削がれてしまう恐れがあるからです。学習評価は、生徒を序列化するところが目的ではなく、生徒が自身の課題や成長に気づくために行うものです。そこで、生徒の振り返りシートなどによる形成的評価を日常的に行い、学習の動機づけを図ることを重視しています。授業の冒頭では、生徒の振り返りシートからほかの生徒の気づきになることを紹介したり、実験に取り組む姿勢にコメントをしたりと、生徒を意識的に褒めています。「褒められたい」といった外発的動機づけをきっかけとして、学習に一生懸命取り組むことで、生物の面白さや価値に気づき、「楽しいからもっと頑張ろう」といった内発的動機づけに結びつけたと考えています。



## 生徒が学びをより深めるための工夫

### 振り返りシート

今日の授業で一番印象に残ったこと（もしくは一番大切だと感じたこと）\*

記述式テキスト（短文回答）

今日の授業に関する疑問と予想（問いと仮説）、気づいたこと\*

記述式テキスト（長文回答）

【教員に対して】今日の授業で良かった点

記述式テキスト（長文回答）

【教員に対して】今日の授業の内容に関して改善すべき点と具体的な改善のアイデア

振り返りは、オンラインのアンケートフォームに入力して提出する。項目は、学習内容、自己評価（自分の取り組みのよかった点など）、授業で一番印象に残ったこと（一番大切だと感じたこと）、授業に関する疑問と予想（仮説）、授業への要望・意見などだ。（@ Google）

### 2学期からは振り返りシートの提出を任意に

授業の振り返りは、知識の定着や新たな疑問につながると考え、振り返りシートを活用しています。

#### ●1学期までは必須、2学期以降は任意

疑問を持ち、それを解決しようとすることは、一種の探究活動です。1学期は振り返りの方法を学ぶ機会としてシートの提出を必須にしていたのですが、2学期は任意としました。強制されるから提出するのではなく、生徒が自ら感想や疑問を書きたいと思うような刺激的な授業を展開するよう、努めています。

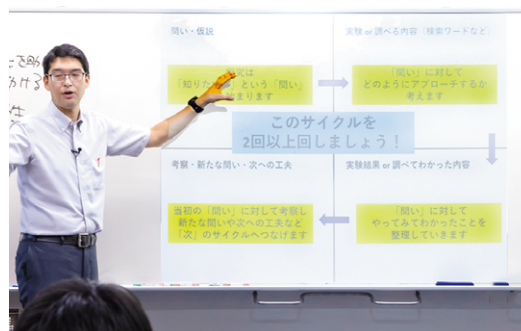
#### ●次時の授業の冒頭にクラス全体に共有

授業の内容についての疑問は、生徒が多様な視点を持てる機会として、解決の参考になる文献も示して解説しています。

### 実験をやり直す機会を設ける

2学期からは、実験をやり直す機会を設けました。1学期は、1つのテーマにつき実験は1回としていたのですが、生徒から、「うまくいかなかったのもう1回挑戦したい」といった要望が上がったためです。そこで、単元計画を改め、本単元では、3時間分を実験に充てるようにしました（図1）。

複数の仮説に対して実験計画を立てるので、生徒は多面的に考えるようになります。そうした点でも、実験を通じて探究心が深まっていると感じています。



「問い・仮説の立案→実験→結果→考察・新たな問い」のサイクルを2回以上回すよう、生徒に伝えている。実験をやり直したいと生徒が申し出たのも、そうした考えが生徒に浸透したからだ。

### 成果と展望

学習方法を自ら振り返る生徒たち。さらなる「深い学び」の実現へ



1学期から「教え過ぎない」授業を進めてきた結果、多くの生徒に主体的に学びに向かう姿勢が見られるようになっていきます。概念的知識に絞った授業でも、「用語を解説してください」といった声は上がりません。定期考査での難易度の高い考察問題にも前向きに挑戦し、「暗記するだけでは、問題は解けないことが分かった」など、自分の学習方法を適切に振り返る様子が見られます。

今後の課題は、さらに「深い学び」ができるような授業です。実験では、生徒自身で実験を計画し、試行錯誤することを意識しています。実験以外の場面でも、生徒自らが「問い」を立て、それを探究課題として主体的に学んでいけるような形も取り入れ、探究のサイクルをより強く意識した授業デザインにしていきたいと考えています。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任



## 探究学習 伴走する教師たち

東京都・私立  
多摩大学附属  
聖ヶ丘中学高校  
出岡由宇



# たくさんのお大人に会おう！ 地域の温かさの中で 失敗を学びに変える生徒たち

### 探究学習の概要

## 町から学び、町で実践する 地域課題解決型の探究学習

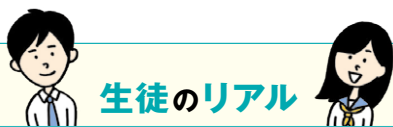
東京都・私立多摩大学附属聖ヶ丘中学高校では、高校1・2年次の毎週水曜日の午後、45分授業3コマ分と部活動の時間を充てて、学校周辺の地域課題を探究している。調べ学習にとどまらず、課題解決に向けたアクションにつなげているのが特徴だ。

1年次の「探究基礎」では、1学期に、探究学習における課題設定や情報収集の方法を学び、2学期以降は、地域住民へのインタビューやアンケートなどを行い、生徒は多様な大人と接する。2022年度は12月に、1年生が市民が多摩市に関する学びを発表する「街なかプレゼン期末テスト(\*)」を2時間にわたって実施し、生徒は400人の市民と質疑応答を行った(写真)。



2年次の「探究ゼミ」では、環境美化や条例策定、高齢者支援など、多摩市が抱える8つの課題のいずれかについての探究学習を、少人数のゼミ形式で展開。多摩市役所への政策提言や高齢者向けのスマートフォン講座の実施など、様々なアクションへとつなげていく。

同校の探究学習は、多摩市役所との緊密な連携の下で進められている。水曜日の午後には、多摩市役所の職員が「探究アドバイザー」として職員室に常駐。生徒の相談に乗るなど、探究学習をサポートしている。



### 生徒のリアル

#### 探究学習を通して 自分が変わった

高校2年生  
A・Wさん



多摩市民の豊かな暮らしのための条例を提案するゼミに所属しています。最初の頃は探究学習に興味はなかったのですが、多摩市役所の方と話し合ったり、町の方の声を聞いたりするうちに楽しくなってきました。2次元コードから回答するアンケートで高齢者の意見を集めようとしたために、思ったように意見が集まらなかったなど、失敗も多かったです。先生から「高校生になって変わったね」と言われますが、探究学習でいろいろな大人と出会ったおかげだと思っています。

#### 地域のために頑張ろう という気持ちになった

高校2年生  
S・Kさん



1年生の頃は、探究学習に取り組む意義が分からず、なかなかやる気が起きませんでした。でも、熱心に取り組むゼミのメンバーに触発されたことや、12月の「街なかプレゼン期末テスト」で町の人たちからたくさん意見をいただいたことで、地域のために頑張ろうという気持ちになりました。2年生の今は、高校生ができる高齢者支援について考えるゼミに所属しています。秋に多摩市が開催する地域のお祭りに参加して、高齢者対象のスマホ相談を行う予定です。

### 学校概要

設立 1989(平成元)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約120人  
2022年度卒業生進路実績 国公立大は、秋田大、山口大、愛媛大、高知大、鹿児島大、福山市立大に6人が合格。私立大は、青山学院大、学習院大、中央大、東京薬科大、東京理科大、法政大、明治大、立教大などに延べ282人が合格。専門学校進学3人。

\*「街なかプレゼン期末テスト」の様子は、こちらの動画で視聴可能。

<https://youtu.be/b8gMRAXDFgQ>





## 停滞！混乱！葛藤！教師のリアル



# 生徒の探究学習は「失敗」があたり前！ 大切なのは失敗を「学び」に変える場をつくること

自らの挑戦を様々な大人に認めてもらうことで、生徒に自信をつけさせたい。それが学びへの意欲を高めることにもなる。そんな思いで、本校の探究学習は始まりました。地域に出れば、生徒は叱られたり、しんどい思いもしたりしますが、生徒が失敗するのは当たり前のことなのだ。教師間や多摩市役所の職員の方々とで目線合わせをし、生徒には、「失敗してもいい。挑戦に価値がある」と繰り返し伝えました。

実際、生徒たちは大いに苦労しています。地域の方向けのイベントを開催したけれども、告知の方法が悪くて参加者ゼロに終わり、生徒が落ち込んでしまったこともありました。しかし、互いの挑戦を認め合い、きちんと振り返る機会をつくれれば、生徒にとって失敗は価値のある経験になります。なぜ失敗したのか、次はどうすればよいかを考え、それを後輩たちに引き継ぐことで、生徒は「自分の失敗には意味があったのだ」と気づきます。多くの教師は「生徒には失敗経験も必要」と言いますが、失敗から学んだことを整理し、それを他者に共有する場を教師がつくってこそ、失敗に価値が生まれるのだと思います。

振り返りの時間も年間計画に組み込んでいますが、失敗が学びに昇華したかどうかは、一人ひとりの生徒に寄り添わなければ分かりません。そして、私に心の内を見せてくれる生徒もいれば、なかなか見せてくれない生徒もいます。そこで大切になってくるのが、多摩市役所の西村さんを始めとする様々な大人と生徒とのわか

りです。事実、探究学習においては、私よりも西村さんに心を開いて相談する生徒が何人もいます。

探究学習での、失敗にも大きな価値があるという考え方に立つまでには、生徒よりも私たちが教師の方が時間がかかると思っています。本校では、18年の夏から、「教師がまず探究学習を楽しむ」ことをコンセプトに、各教師が自身の興味・関心に沿って講座内容を決める夏季学習講座を開講しています。教師間で学びについての価値観を共有し、生徒と教師が失敗も含めて楽しみ、語り合う経験を土台に、現在の探究学習のカリキュラムを作り上げました。

生徒を地域に送り出すにあたって、私たち教師は、外部機関へのアポイントメントの取り方から、全員で学びました。西村さんとのつながりも、私が市役所にかけた1本の電話から始まりました。そうして1人、また1人と、地域とつながる教師が増え、その楽しさを職員室で語り合う中で、教師の顔つきが変わっていききました。生徒と同じように、私たち教師も探究学習を通して成長しているのだと思います。

**まずは教師が  
探究学習を楽しむ経験を。  
それをきっかけに、教師同士の  
対話が始まるはずですよ。**



**高校生の探究学習が  
地域の未来を創る**  
多摩市 企画政策部 企画課  
西村信哉

「探究アドバイザー」として、生徒の探究学習に伴走しています。高校生の活動には失敗はつきものですが、本当の失敗は何も挑戦しないことだと思っています。人前で話すことが苦手だった高校生が町中で大人に話しかけられるようになったことや、高校生と地域住民が市の施設を活用して地域の未来について対話していることなど、いずれも確かな成果です。探究学習を経験したことで、若い世代の投票率も上昇するかもしれません。地域の未来を創る力は確実に育まれています。



いずおか・ゆう 同校に赴任して10年目。高校2学年主任。国語科。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

そうだったのか!

# 学習評価

先生方の疑問に識者が答えます!

今号の  
テーマ



「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、具体的に何を評価すればよいのでしょうか。

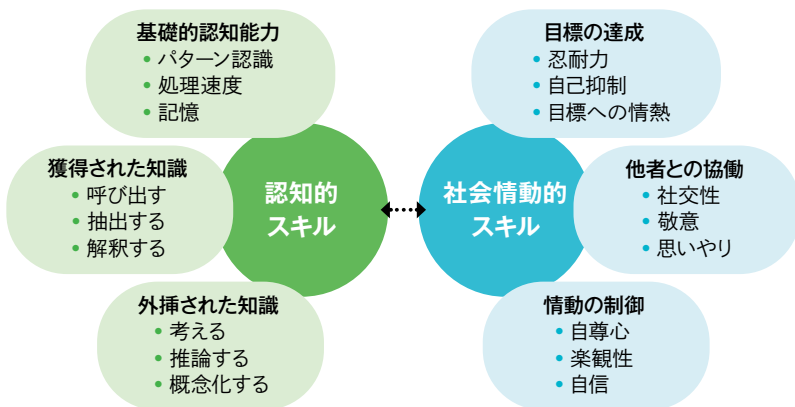


性格や行動面の傾向ではなく、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた学習者の意思的な側面を評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力等」の育成のために、自分の学習状況を把握し、自分の学習を調整しながら学ぼうとしているかといった意思的な側面を評価することが求められます。すなわち、挙手の回数やノートの取り方など、性格や行動面の傾向を評価するではありません。

文部科学省は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の2つの側面を評価することであると示しました。ただ、それらの具体的な態度や姿は、明確に言語化する必要があります。そこで参考になるのが、OECDが示した「社会情動的スキル」(下図)や「性格特性BIG5」(\*1)です。OECDは、忍耐力などの「社会情動的スキル」が高まれば、知識・技能を獲得・発揮するための「認知的スキル」も高まると提起しており、「社会情動的スキル」は、「性格特性BIG5」である「誠実性、外向性、協調性、開放性、安定性」の5因子に基づいて考案されています。例えば、協調性は他者と協調する態度、開放性は他者との違いや多様性を尊重する態度などを指しますが、それらは先生方がこれまでも生徒に育成してきた学習態度だと思います。「社会情動的スキル」や「性格特性BIG5」を踏まえると、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について捉えやすくなるのではないのでしょうか。

## ● OECDによる「認知的スキル」と「社会情動的スキル」のフレームワーク



※ OECD / 池迫浩子・宮本晃司 ベネッセ教育総合研究所訳『家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成 国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆』を基に編集部で作成。

\*1 アメリカの心理学者ルイス・R・ゴールドバーグ氏が提唱した、個人の性格に関する学説。

# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価



回答者

國學院大學  
人間開発学部初等教育学科 教授  
**田村 学**

たむら・まなぶ 専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官などを経て、現職。著書に、『学習評価』(東洋館出版社)など多数。



「主体的に学習に取り組む態度」は、どのように評価すればよいのでしょうか。



生徒に期待する姿を具体的に言語化し、フォーマットを参考に評価規準を作成してみましょう。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、先ほど示した「社会情動的スキル」や「性格特性BIG5」をよりどころに、教科や科目、単元、学習活動において、生徒に期待する学習態度を具体的な言葉にすることが重要です。

その参考資料として作成したのが、下のフォーマットです。学習活動・場面において期待する態度が入る「△△」は、「性格特性BIG5」の5因子を踏まえた例（下図右）も参考にして考えるとよいでしょう。例えば、担当教科の学習における「誠実性」とは何かを考えてみると、理科では「データの数値に真摯<sup>しんし</sup>に向き合って」、体育では「ルールやマナーを厳守して」などと、各教科の特性が表れるものになるはずで、その評価規準を達成

できている場合を「B」とすれば、それが達成できていない場合が、「C」となります。「A」は、「△△」を複数設定するなどして、どちらも達成できているかどうかを評価する方法などが考えられます。

そうして作成した評価規準を用いて、時間を軸にして生徒の変容を捉えたと評価しやすいでしょう。例えば、単元の始めと単元の終わり、生徒の自己評価やパフォーマンス課題（\*2）などから学習態度の変容を見取る方法が考えられます。生徒が成長を実感する機会や、学習の動機づけになることも期待できます。文字や絵、画像、動画など、評価材料が形に残っていることは、総括的評価をする上でも有効です。

●「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定フォーマット

○○について（おいて）、△△しながら（して）、□□しようとしている。

- ：活動や場面、状況など
- △△：態度に関する非認知系の知識など
- ：「主体的に学習に取り組む態度」として表れる行為

**例1** レポートの作成において、友人の考えを参考にしながら、自分の考えをまとめようとしている。

**例2** グループ活動において、互いのよさを生かしたり、独自のアイデアを発揮したりしながら、問題解決を図ろうとしている。

※田村学『学習評価』（東洋館出版社）を基に編集部で作成。

●「性格特性BIG5」を参考にした△△の例

誠実性	何度も粘り強く繰り返し／ゴールや目標に向かって／計画を着実に遂行し など
外向性	自ら進んで取り組み／自分の考えをはっきりと伝え／様々な人とかかわり など
協調性	互いのよさを生かして／それぞれの思いをすり合わせて／相手の立場を尊重して など
開放性	異なる考えを参考に／新たなことに挑戦して／独自のアイデアを発揮して など
安定性	いつも変わらずに／誰に対しても同じように／状況に影響されることなく など

※田村学『学習評価』（東洋館出版社）を基に編集部で作成。



次の単元の学習活動・場面において生徒に期待する態度について言語化し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成してみましょう。



作成した評価規準を、同じ科目を担当する教師に見てもらい、文言の適切さや妥当性を語り合ってみましょう。

\*2 レポートやプレゼンテーションなど、様々な知識やスキルを総合して使いこなす（活用・応用する）ことを求めるような、複雑な課題。

\*本コーナーでは、9～12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い総合型選抜（旧AO入試）と学校推薦型選抜を、「年内入試」と総称しています。年内入試支援をテーマとしたVIEWnext高校版 2023年8月号・特集はこちら▶▶



## 生徒の可能性を引き出す 新進路選択支援

年内入試（\*）の募集枠の拡大など、大学入試環境が大きく変化している中で、生徒がより自分に合った進路を選択できるよう、生徒の内面や可能性を引き出すことが一層重要になってきている。そうした支援においては、学校や教師には何が求められるのか、実践事例を通じて考える。

# ビジョンの「人物多様性」に基づき、個性を尊重した支援を追求

## 北海道・私立札幌新陽高校

### 同校が目指した生徒の行動変容、そのための教師の支援

生徒

BEFORE



成功体験が乏しいため、自己肯定感が低く、何事も諦めやすい生徒が少なくなかった。

教師の支援

- 生徒が視野を広げられるよう、1年次に自分をj知る活動、2年次に体験的な学びを重点的に実施。
- 連携企業や教師が持つネットワークを活用して、生徒一人ひとりに多様な選択肢を提示。

生徒

AFTER



目的意識を持って自分の進路を選択する生徒が増加。大学合格者数は5年間で3倍に。

### 学習者中心の学習設計と するため、単位制を導入

北海道・私立札幌新陽高校は近年、「本気で挑戦する人の母校」をスローガンに掲げ、生徒の興味・関心や強みを引き出す教育活動を行ってきた。そうした支援によって、目的意識を持って自分の進路を選択する生徒が増加。俳優やプロスポーツ選手などの道に進む生徒や、年内入試に挑む生徒も増え、大学合格者数はこの5年間で3倍となった。キャリア教育担当の植田祐矢先生は、生徒への思いをこう語る。

「生徒の多くは、入学時は学力が低く、成功体験やリーダー経験が乏しいため、自分に自信を持っていません。そんな生徒も自分の価値を証明したいと思っています。挑戦の機会を用意し、それぞれに寄り添った支援をすれば、必ず力を発揮すると思っていました」

2022年度には、ビジョンの「人物多様性」に基づき、単位制を導入。生徒個々に異なる個性を持つことを前提として、「個別最適な学び」を追求している。グラデュエーション・ポリシーの1つ「自ら学習を設計し、学び続ける姿勢」の育成に向け、生徒が自分の関心や進路に応じて科目を選び、自分で時間割を組めるようにした。3

年次の必修科目を減らし、生徒が自主活動に自由に挑戦できるようにするねらいもあった。さらに、同年度からは4人1組を基本とする協同的な学びも実施。生徒が自分の考えを述べる場面をどの科目にも設けるようにした。また、クラス制をやめ、メンター制を導入。教師が1人あたり約20人の生徒を受け持ち、面談などを行っている。

### 評価対象を生徒が自ら 決める「わがまま通信簿」

進路支援のテーマは、1年次は「自分をj知る」、2年次は「本気で挑戦」、3年次は「自主創造」だ（図1）。赤司あかしかし展子校長は、その意図をこう説明する。

「生徒は、自分が知っている範囲内ではしか進路を選ばません。そこで、生徒が視野を広げられるよう、1・2年次は自分の適性に気づいたり、ロールモデルを見つけたりする活動を重点的に行っています」

1年次の特徴的な活動の1つが、「わがまま通信簿」（図2）だ。見取ってほしい点などを生徒自身が記入するもので、教師は面談の材料にしている。

「できないことを指摘するのではなく、できていることを認め、『自主創造』へと進んでいけるような見取りと声か



図1 各学年の進路支援のテーマと活動内容

### 1年次 自分を知る

自分を語れるようになる（好きなことや得意なことなど）  
 頑張ったことや克服したこと、今後の課題などを、eポートフォリオに記録。「わがまま通信簿」には、生徒自身が認めてほしいことを書く。教師はそれらを踏まえて生徒と対話し、気づきを促す。それらの活動は2年次以降も継続。

### 2年次 本気で挑戦

何かに本気で挑戦した、挑戦中、挑戦したいことが見つかった大学訪問またはインターンシップを選択。生徒から訪問したい大学やインターンシップ先が挙げられたら、可能な限り訪問希望を実現させる。生徒が職業人3人と語り合う「ヒューマンライブラリー」なども実施。

### 3年次 自主創造

今後の進路が自己決定できる  
 空き時間を活用し、各自の進路や興味・関心に応じて自分を高める活動に、主体的に取り組む。卒業時の進路決定をゴールとせず、10年後、20年後のキャリアをデザインできるように生徒一人ひとりをサポート。

図2 「わがまま通信簿」(記入例)

2023年度	
①4～6月を振り返って	充実していた
②そう思った理由	
友達がたくさんできたし、エスコンのボランティアに参加したし、部活動に3つ入部した。そのほかにも、イエローハウスのTシャツプロジェクトに参加したり、広報ポスターのモデルもやらせてもらえたりと、たくさんのごことに挑戦できたから。	
★7～9月 見取ってほしいテーマ (観点)	
どんな活動に参加しているか。	
★評価材料	
態度。活動内容。	
★どのような自分になっていたいか (到達目標)	
たくさんのごことに挑戦していても、計画的で詰め込みすぎでない自分。	
★そのためにやること (計画)	
スケジュール管理をしっかり行い、to doリストを今のうちから作っておく。	

「わがまま通信簿」は3か月おきに生徒が記入。3か月間を振り返って自分が頑張ったことをメタ認知するとともに、それを踏まえて、次の3か月間の目標を立て、その実現に向けた行動計画を立てる。自分の得意なことやこだわりなどを生徒にアピールさせることで、自己肯定感の向上を図るねらいがある。教師にとっては生徒を多面的に評価する機会となっている。京都大学の塩瀬隆之准教授のアドバイスを基に始めた取り組みだ。

※図1・2とも、学校資料を基に編集部で作成。

お  
勧  
め  
の  
分  
掌

管  
理  
職

教  
務  
担  
当

進  
路  
担  
当

担  
任



左から/植田祐矢 (メンター長、キャリア教育担当)、赤司展子 (校長)、星裕也 (教務部)

#### 学校概要

- 設立 1958 (昭和 33) 年
- 形態 全日制/普通科/共学
- 生徒数 1学年約 280人
- 2022年度卒業生進路実績 国公立大は、富山大、札幌市立大、芸術文化観光専門職大に3人が合格。私立大は、札幌国際大、札幌大、北星学園大、北海道医療大、流通経済大、中京大などに延べ116人が合格。短大・専門学校進学62人。就職38人。

2年次は、社会を知る観点から、大  
 学訪問か企業インターンシップのい  
 ずれかを選択して活動する。

### 時宜を得た支援が 生徒の心に火をつける

「心をかけています」(植田先生)  
 生徒は当初、「予習・復習を頑張った」「テストの点がよかった」などと、学習のことがばかりを書いていたが、教師が学校行事や部活動、日々の生活など、学習以外のことも書いてよいと伝え、できていることを褒め続けると、次第に学習以外での成長にも目を向けて書くようになった。どんなことでも評価してもらえると安心感が生徒の自己肯定感を高め、行動変容を促している。

期待している。「本校での学びで自信が持てたと言える生徒を送り出していきたい」と、赤司校長は抱負を語る。

4月には、基礎力診断テストと適性検査を同日に実施。ウェブで解答結果が即日生徒に返却されることから導入した(\*)。教務部の星裕也先生はそのねらいを次のように語る。  
 「記憶が鮮明なうちにテストの結果を知ることができると、生徒はすぐに復習に取り組みできました。適性検査では今まで見えていなかった資質が評価され、生徒は自己肯定感を高めていました。生徒の心に火をつけるには、タイミングを逃さずに情報を提供することが大切なのだと思えました」  
 3年次は、資格取得や進学・留学準備など、自分を高める「自主創造」を

\* 自分の強みを知り、自分軸を作るベネッセの進路学習教材である「進路達成プログラム」と教科テスト(基礎力診断テスト、スタディーサポート)を同日に実施する「進路・学習同年版」について、オンライン説明会を2023年10月から12月にかけて開催します。  
<https://appdl.fleekdrive.com/pl/AXsuolfHsAwdz6wehFzWdk7Rqk86boP2> または、右の2次元コードからアクセスし、詳細をご確認ください。





## 目標と指導と評価の一体化

# 「育成したい6つの資質・能力」を意識した 指導と評価で、生徒の主体性を育む

### 徳島県立名西高校

1分  
で  
分かる軌跡

徳島県立名西高校は、普通科の入学生員数が削減されたことをきっかけに、教育の質の維持・向上を目的とした学校改革に着手した。校内で議論を重ね、生徒の実態を把握した上で、「育成したい6つの資質・能力」を設定。各教科でパフォーマンス課題とルーブリックを作成し、6つの資質・能力を育成すべく、授業改善に取り組んでいる。ルーブリックの運用が軌道に乗った後も、目標と指導と評価の一体化に向けて、校内研修などを通じた不断の改善を図っている。

#目標と指導と評価の一体化  
#ルーブリックの実践的な運用

#### 学校概要

設立 1923（大正12）年  
形態 全日制・定時制／普通科、芸術科／共学  
生徒数（全日制） 1学年約100人  
2022年度卒業生進路実績（全日制）  
国公立大は、徳島大、鳴門教育大、高知大、愛知県立芸術大、京都市立芸術大、島根県立大、尾道市立大、広島市立大、高知工科大に9人が合格。私立大は、大東文化大、女子美術大、京都女子大、同志社女子大、大阪音楽大、近畿大などに延べ66人が合格。



校長  
向井佳子  
むかい・よしこ  
同校に赴任して2年目。



企画課長  
多田和也  
ただ・かずや  
同校に赴任して11年目。数学科。



進路指導課長  
横田浩一  
よこた・こういち  
同校に赴任して6年目。地理歴史科。



企画課、人権教育主事  
三浦真美  
みづら・まみ  
同校に赴任して3年目。国語科。



企画課国際交流担当  
田中由子  
たなか・ゆきこ  
同校に赴任して1年目。教務課。英語科。



企画課探究学習担当、1学年主任  
近藤幸絵  
こんどう・さちえ  
同校に赴任して6年目。教務課。地理歴史科。

## 変革の背景

### 入学定員数の削減を機に、 自校の教育のあり方を見直す

2023年度に創立100周年を迎えた徳島県立名西高校は、普通科と県内で唯一の芸術科を設置している。同校が学校改革に着手したのは17年度のこと。そのきっかけは、18年度から普通科の入学定員数が115人から75人に削減されたことだった。生徒数の減少に伴い、教師数も削減される中で、いかに教育の質を維持・向上させていくかという課題に直面した。そこで、有志の教師による「今後のことを考える会」を設置し、自校の教育のあり方について語り合った。

当初は、当時行っていたきめ細かい指導を継続しようと、限られた教師数で習熟度別クラスを実現する方法などを検討した。しかし次第に、これからの社会で求められる力は何か、それを生徒が身につけるためにはどのような指導をすればよいかという議論になっていった。その過程

で、徳島県教育委員会「カリキュラム・マネジメント・ハイスクール事業」に応募。19・20年度の同事業の研究指定校に採択され、まずはブランドデザインの策定に着手した。

## 変革の一手①

### 様々な教師が参加する会で 生徒像や今後の課題を議論

19年度、同事業を推進する組織として、「名西高校魅力化プロジェクトチーム」（以下、MMP）を立ち上げた。チームの運営の中心を担う

数人の教師以外はメンバーを固定せず、誰もが自由に参加できる組織にした。そして、MMPでの議論の結果を職員会議で報告し、承認を得るという形で取り組みを進めていった。企画課長の多田和也先生は、次のように振り返る。

「本校では、口頭から授業や生徒のことなどを率直に語り合う関係性が教師間でできています。『総合的な探究の時間』の検討などにおいて、教師同士で生徒の課題やあり方を出し合い（図1）、MMPでは、それらを踏まえて育成を目指す資質・能力などを議論しました」

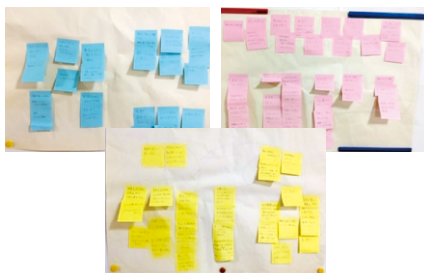
図1

### 目標設定に向けた現状把握

【前略】計画の作成にあたっては、本校の実態に即した本校なりの目標が必要です。その目標をはっきりさせるために、先生方のご協力をいただきたいと思えます。時間割の黒板に模造紙を掲示し、3色の付せんを置いています。次の3つについて感じることを、色分けして付せんに記入し、模造紙に貼ってください。

- ①青：生徒はまあまあできていると思われること。
- ②ピンク：生徒はあまりできていないと思われること。
- ③黄色：生徒にこうなってほしいと望むこと。こんなふう成長させたいと考えること。

※同じようなものがあったら貼ってください。同じものがたくさんあるのは大事なことです。※付せんが増えてきたら、同じようなものをグループにするなど、先生方で自由に貼り替えてください。



※学校資料を基に編集部で作成。

MMPには毎回入れ替わりで多くの教師が参加し、活発に意見を交わした。そうして19年度末に、「明日に輝く名高生」を教育方針に掲げ、育てる生徒の育成」を教育方針に掲げ、育成を目指す資質・能力として「継続する力」「探究する力」「伝える力」「協働する力」「創造する力」「つなげる力」の6つを掲げたブランドデザインを策定した。進路指導課長の横田浩一先生は、こう振り返る。

「議論を通じて、本校の生徒は真面目で素直だが、主体性や積極性に欠けるという課題を教師間で共有できました。多くの生徒が、社会的なことへの関心の幅が狭く、社会と結びつけて自分のあり方・生き方を考えられていないと感じていました。その点を変えたいと思いました」

## 資質・能力を評価するため、全教科でルーブリックを作成

先進校の視察や外部研修会への参加を重ねる中で、目標として掲げた6つの資質・能力を生徒に育むことができていくかどうかの検証は、従来のペーパーテストだけでは難し

く、パフォーマンス課題による評価が欠かせないと考えるようになった。そこで20年度に、大学教員を講師に招き、パフォーマンス課題と評価をテーマにした全教師対象の校内研修を実施。各教科がパフォーマンス課題とルーブリックの作成に着手した。

「年数回実施するパフォーマンス課題の評価基準として活用する予定だったルーブリックですが、日々の授業における資質・能力の到達度を測る指標としても用いることができると考えました。そこで21年度から、ルーブリックを用いた学習評価を行うとともに、ルーブリックで設定した評価基準に基づいた授業設計をすることにしました」（多田先生）

## 変革の一手②

### 伸ばす力のカードを黒板に貼り、目標を生徒と共有

しかし、21年度の授業改善は、停滞状態に陥った。企画課の近藤幸絵先生は、次のように振り返る。「ルーブリックを完成させたもの

の、それに基づいてどんな授業をすればよいか、多くの教師がイメージを持っていませんでした。結局、21年度は、ルーブリックをほとんど活用できないまま終わりました」

そこで22年度は、「育成したい6つの資質・能力」を書き込んだ6枚のマグネットカードを全クラス分用意し、教師が授業の開始時や途中に、本時で育成を目指す資質・能力のカードを黒板に貼るようにした（写真）。そして、「今日の授業で伸ばしたいのは『つなげる力』と『創造する力』だからね」などと生徒に伝え、生徒が目標を意識して授業を受けるようになることを目指した。

「その小さな工夫が、大きな成果につながりました。毎授業、生徒にカードを示すようにすることで、教師は必ず、『今回の授業では、6つの資質・能力のうち、何を伸ばすか』、『そのために授業をどう組み立てるか』といったことを意識します。カードがあることで、ルーブリックで設定した評価基準に基づいた授業とはどのような授業なのかを考え、それを実践できるようになりました」（近藤先生）

カードが示されるようになってから、生徒の授業態度に変化が見られた。例えば、「江戸幕府が長期政権を築けた理由」をテーマとし、「探究する力」を伸ばすことを目指した日本史の授業では、生徒は教師から提示された資料などを基に、他の幕府と江戸幕府との違いを比較しながら、その理由を自分なりに考えようとする姿勢が見られたという。

「カードを通じて授業の目標が示されたことで、生徒は自分がこの授業で何を学び、そのために何をやるかが考えられるようになるなど、主体性の高まりを感じます」（近藤先生）



写真 「育成したい6つの資質・能力」の中から、教師がその授業で育成したい力のカードを黒板に貼り、生徒に示している。

図2 「育成したい6つの資質・能力」のルーブリック 国語科の例

重点的に育成したい資質・能力		レベル1 (C)	レベル4 (S)	授業や学習の場面や形態、判断する方法等	観点
目標達成度		1年生	3年生		
設定の目安		教師の支援を受けながら、目標に向けた習得に努める。	自ら課題を発見して、目標到達ができる。		
継続する力	基礎的な言語能力 (語彙力)	基本的な語彙を身につけようとしている。漢字検定3級の常用漢字を、文や文章の中で読んだり、書いたりすることができる。	言語に対して特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深めるとともに、語彙を豊かにしている。	漢字の読み書きができ、言葉の文化的背景を理解している。(漢字検定の受験、授業中の漢字テストの成績)	1
	探究する力	言葉を通して他者や社会にかかわり、自己と向き合う力	人間、社会、自然などに関する文章の内容や解釈から、異なる価値観と結びつけて新たな観点をもち、行動できる。	評論などを読み、自分の考えをワークシートに書いたり、発表できたりする。(関連する新聞記事を選べる、図書室で図書が選べる)	3

右端の「観点」は2023年度につけ加えた。「1：知識・技能」、「2：思考・判断・表現」、「3：主体的に学習に取り組む態度」となる。  
※学校資料を基に編集部で作成。

## ルーブリックの活用を通じて 評価基準の改善を模索

23年度は、ルーブリックの効果的な運用をテーマとした校内研修を1学期に2回実施した。企画課の三浦真美先生は、「校内研修は、ループ

リックで定めた基準を見直す機会にもなった」と語る。

「担当教科の国語科では、『継続する力』を語彙力で評価することにしていました。しかし、生徒の名前を挙げながら科内で議論するうちに、『継続する力』のレベルを語彙力のみで規定することとは適当ではないという考えに至り、評価基準を改善することにしました」

23年度からは、年度初めと学期末に、各教科のルーブリックを用いて生徒が自分の資質・能力を自己評価することにした。

企画課の田中由子先生は次のように語る。

「生徒は自己評価しづらそうでした。それは、

ルーブリックの文言がまだ抽象的だからではないかと感じました。そこで、評価基準のそれぞれのレベルが、どの場面でも何ができるようになることを、さらに具体的に示そうと考えています」

## 変革の成果と展望

### ルーブリックによる評価と 観点別評価の整合性を図る

22年度は観点別学習状況の評価(以下、観点別評価)にも取り組んだが、ルーブリックによる評価と観点別評価との整合性をどう図るかが課題となった。そこで23年7月の校内研修では、教科ごとに、「育成したい6つの資質・能力」を、いつ、どのよう評価するか、それぞれの力が3観点のどれにあてはまるかを話し合い、ルーブリックに加えた(図2)。

その改善により、ルーブリックによる評価を観点別評価に用いることができるようになる。多田先生は、「今後運用しながら、ルーブリックの改善を重ねていきます」と話す。

目標と指導と評価の一体化は道半ばだが、成果を感じている面もある。

「2年生が12月に行う探究学習の発表会では、自分の考えや活動内容を生き生きと話す生徒が年々増えています。普段の授業で、『探究する力』や『継続する力』などを生徒が意識して学んできた成果であり、ルーブリックがあったからこそ得られたものだと感じています」(三浦先生)

「6つの資質・能力を日々の授業で育んできたことが結果的に、23年度大学入試における総合型選抜や学校推薦型選抜での国公立大学合格者数の増加につながったと考えています」(横田先生)

向井佳子校長は、今後の目指す方向性を次のように語る。

「本校の生徒の進路は多様ですが、どのような道に進むにしても、自分で自分の人生を切り拓き、充実したものにできる力を育むことが教育目標です。そして先生方がこれから、『自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現する』生徒の育成のために積極的に挑戦できる環境を提供していきたいと考えています」

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

# 生徒のキャリア・進路観の醸成につながる デザイン思考を用いた「総合的な探究の時間」とは

総合型・学校推薦型選抜の拡大に伴い、学校現場では、「総合的な探究の時間」の中で、

思考力・判断力・表現力などの資質・能力を生徒に育むとともに、生徒のキャリア・進路観の醸成につなげようとする動きが顕著になっている。そこで今号では、生徒のキャリア・進路観の醸成につながる「総合的な探究の時間」の設計と指導のポイントについて、実践事例を基に考える。

## 実践事例

### 「自他のしあわせ」を探究する 「未来構想ゼミナール」で 自律的に進路を拓く力を育む 宮城県宮城野高校

#### デザイン思考で

#### 「自他のしあわせ」を探究

宮城県宮城野高校では、普通科、総合学科、美術科の長所を融合し、前課程の「総合的な学習の時間」から探究学習に取り組んできた。そして2022年度の学科改編を機に、「総合的な探究の時間」を「未来構想ゼミナール」と名づけ、「自他のしあわせ」をキーワードとする問題解決型学習へ

#### 学校概要

設立 1995（平成7）年

形態 全日制／普通科、美術科／共学

生徒数 1年次約240人

2022年度卒業生進路実績

国公立大は、山形大、東北大、宮城教育大、千葉大、金沢大、宮城大、東京都立大、長岡造形大などに71人が合格。私立大は、多摩美術大、中央大、明治大、早稲田大などに延べ361人が合格。

と発展。「探究の宮城野」を次代の学  
校像として掲げ、進化を続けている。

未来構想ゼミナールは週1回、午後  
の2コマ連続で実施されている。1年  
次前期に、未来構想学概論という授業  
で、問題解決に必要な「デザイン思考」  
や「探究スキル」を習得する。そして  
1年後期からは、興味がある学問に  
ついて実験や文献調査を積み重ねなが  
ら追究する「学問探究」や、フィール  
ドワークやディスカッションを通して

社会課題の解決策を提案する「課題解  
決」など、4つの系統のいずれかに所  
属し、異年次混合で活動する（図1）。

「本校におけるデザイン思考は、問  
題を解決し、『自他のしあわせ』を実  
現するための工夫を考えることです。  
生徒は、『わくわくするか？』『新しい  
か？』『誰かの役に立つか？』の3つ  
の問いのうち、少なくとも1つに該当  
する企画を所属する系統で考え、その  
実現に取り組みます」（丹羽裕教頭）

## 異年次混合で取り組む探究学習

図1 「総合的な探究の時間」の3年間の流れ

学年	取り組み
1年次（前期）	未来構想学概論 「デザイン思考」や「探究スキル」の習得
1年次（後期）探究Ⅰ 2年次（前期）探究Ⅱ 2年次（後期）探究Ⅲ 3年次（前期）探究Ⅳ	未来構想ゼミナール（異年次混合） 4系統12程度のゼミナールのいずれかに所属 問題解決型の探究学習を実施 ※探究Ⅰ～Ⅳで行う内容や形式（異年次混合グループ探究か 個人探究か等）は、系統やゼミナールによって異なる
	学問探究 課題解決 実習・体験 表現・芸術

※学校資料を基に編集部で作成。

# 生徒が、探究学習での成長を観点別に自己評価

## 69の評価項目から 自分の長所を見つける

1年次の前期、生徒は「『自他のしあわせ』とはどのような状態か」をテーマとしたグループワークを通じて、探究学習の素地を養う。

「LHRで学校行事を企画する際に『自他のしあわせ』を意識させることなどを通じて、1年次後期からの未来構想ゼミナールに必要なデザイン思考が実践的に生徒に身につきます」（1年次主任・若生啓太先生）

1年次は、後期からの未来構想ゼミナールで自分は4系統のどの系統に所属するのかを、8月に実施される上級生のゼミ活動の最終発表である「ゼミフェス」を参考に決定する。

「未来構想ゼミナールでは、探究のテーマはもちろん、探究の手法についても個別最適を目指しています。先輩の探究学習を参考に、自分はどんな課題に、どんな手法でアプローチしたいかを考え、それをゼミの志望理由書としてまとめ、所属する系統を決定します」（2年次主任・川崎浩介先生）

1年間のゼミナール活動では、3月に中間発表、8月に最終発表（ゼミフェス）が行われ、生徒は振り返りシート（図2）を使って自身の成長を自己評価する。シートには、観点別学習状況の評価の3観点を土台に、69の評価項目が記載されているため、生徒は多角的かつ詳細に自己評価を行うことができる。また、教師は同シートを、面談の際の声かけの材料にしている。

「生徒の探究学習はテーマも手法も多様ですから、私たち教師が生徒と丁寧に対話し、一人ひとりの生徒に、評価項目の中から自分の長所と言える項目を見つけさせます。そして、その後の探究学習を通してさらに伸ばしていきます」（教務部長・伊勢将聡先生）

## 探究学習での成長を生徒自身が分析

図2 探究学習の振り返りシート（抜粋）

評価力	課題の本質（キーワード）を見抜き、端的な表現で言い表すことができる。	①	②	③	④	⑤	⑥
4. 思考力	抽出・整理した情報について、それらの関係性（共通点・相違点）を明確に見出すことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

観点別学習状況の評価の3観点を土台に、69項目で自己評価する。思考力について自己評価する8項目（①から⑧）の一部を抜粋して掲載。振り返りシート全体は、ウェブサイト「VIEW next ONLINE」(<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>) からダウンロード可能。



※学校資料を抜粋して掲載。

校長  
**早坂重行**  
はやさか・しげゆき  
同校に赴任して1年目。  
国語科。博士（教育情報学）。



教頭  
未来構想委員会委員長  
**丹羽裕**  
たんば・ひろし  
同校に赴任して15年目。  
美術科。



研究企画部長  
**西澤 硬**  
にしざわ・こう  
同校に赴任して5年目。  
理科（地学）。



進路指導部長  
**吉田明弘**  
よしだ・あきひろ  
同校に赴任して5年目。  
数学科。



未来構想委員会副委員長  
**小岩淳子**  
こいわ・じゅんこ  
同校に赴任して9年目。  
国語科。



3年次主任  
**郷右近貴之**  
ごうこん・たかゆき  
同校に赴任して7年目。  
国語科。



教務部長  
**伊勢将聡**  
いせ・まさとし  
同校に赴任して11年目。  
国語科。



2年次主任  
**川崎浩介**  
かわさき・こうすけ  
同校に赴任して12年目。  
地理歴史・公民科（日本史、歴史総合）。



1年次主任  
**若生啓太**  
わかう・けいた  
同校に赴任して9年目。  
数学科。



## 研修の充実とツールの共有で指導力を向上

### 探究学習のプロセスを

#### 総合型・学校推薦型選抜に生かす

23年度大学入試では、同校の国立大学進学者の約3分の1が、総合型・学校推薦型選抜で合格したが、その多くが、探究学習での学びや成長をアピールして合格を勝ち取った。

総合型・学校推薦型選抜での受験を希望する生徒の面接・小論文指導には、全校体制で取り組む。毎年5月に、総合型・学校推薦型選抜に向けた生徒支援に関する校内研修を全教師参加で実施し、面接指導のポイントなどを共有。その上で、各生徒の志望分野に合わせて「担任＋教師2人」の3人体制で支援にあたる。生徒は面接指導に使用する個別指導評価票(図3)を持って、3人の担当教師の指導を受けるようにしており、学校全体で体系的に指導できるような仕組みを整えている。

「校内研修では、個別指導評価票を見ながら、生徒にどのような声かけをして、探究学習での気づきや志望理由

を引き出し、深掘りしていくかといった実践的な講習に加え、前年度に面接指導を受けた生徒の感想などを紹介することで、学校全体でスキル面とマインド面の目線合わせを行っています」(進路指導部長・吉田明弘先生)

中でも、志望者の多い地元国立大学の志望理由書指導については、過去の生徒が探究学習と進路とのつながりを深めていった様子を共有するなど、力を入れている。

探究学習を進路につなげるために、校外との交流も大切にしている。

「未来構想ゼミナールの中間・最終発表には、県内の他校の生徒を積極的に招いています。生徒は、同年代の生徒から質問を受けたり、彼らと交流したりすることで刺激をもらい、探究学習への取り組みとキャリア・進路観の醸成の両面で大きな影響を受けます。探究学習ではできるだけ多様な人との出会いの機会を生徒に与えたいと思っています」(研究企画部長・西澤(さいざわ) 健(けん) 先生)

探究学習で設定したテーマと、志望

先の学問がつながらない生徒も、探究学習でのプロセスを生かして自分の進路を切り拓いている。

「探究のテーマと志望先の学問の内容が一致していなくても、見事に合格を勝ち取った生徒を、これまでもたくさん見ってきました。そうした生徒に話を聞くと、面接官が探究のプロセスに関心を示すなど、生徒の学び方を大学が評価してくれたのではないかと感じます」(未来構想委員会副委員長・小岩(こいわ) 淳(じゅん) 先生)

探究学習を生徒のキャリア・進路観

## 全校を挙げての面接指導体制を構築

図3 面接指導で使用する個別指導評価票

評価項目	質問事項	評価	評価ポイント
志望理由	食及び食を取り巻く環境に興味・関心を持った理由は？本大学での学びをどう考えているか？	Ⓐ B C	具体性があるか？
自己PR力	何かPRしたいことがあるか？	Ⓐ B C	強い意志を感じるか？
論理性	全体を通して論理的に話しているか？	A Ⓑ C	説得力があるか？
課題解決への取り組み (食の安全・安心・環境との調和)	高校で頑張ったことは？	A Ⓑ C	課題を解決するためにどんなことに取り組んできたか？
地域・世界的な視点からの貢献	将来について	Ⓐ B C	社会貢献について具体的に考えているか？
自然科学の基礎知識	遺伝子組み換え、農作物の疫病などについて	Ⓐ B C	農業と食産業の違いを理解しているか？

※「4. 評価の方法」を参照して、評価をお願いいたします。

3. 生徒の反省(個別指導実施後、担当の先生からのアドバイスをもとに記入すること)  
内容は最初の頃と比べて格段にレベルが上がった。あとは必死さを持ちつつ、楽しんで臨めるかどうか。

志望理由と自己PR力は多くの大学で評価される項目であるため、共通の評価項目として設定しているが、それ以外は、生徒が志望する大学のアドミッション・ポリシーに照らし合わせて、担当教師が評価項目を設定。評価項目を評価するための教師の質問を記入し、生徒の返答を3段階で評価する。

※学校資料を抜粋して記載。



## 教師のやりがいと持続可能性を両立させる

### 管理職による探究学習全体のマネジメントが重要

探究学習、そして総合型・学校推薦型選抜の指導・支援に、管理職を含む全教師がかかわる同校。探究学習のあり方、デザイン思考、総合型・学校推薦型選抜の指導に関する校内研修を実施することで、指導力の向上を図っている。早坂重行校長は、「全教師がかかわるからこそ、研修による底上げの次のステップとして、管理職のマネジメントが重要になる」と説明する。

「特に探究学習の指導・支援は、教師にとってやりがいが多い教育活動ですが、際限のないものでもあります。先生方の意欲を尊重しながら、『ここまで十分ですよ』と声をかけるためには、探究学習についての理論的な理解に基づいた、管理職によるマネジメントが不可欠です」

自ら「主体的に学び続ける」校長として、学術研究を続ける早坂校長（\*）は、

大学と高校との交差点に立ちながら双方の視点で探究学習を俯瞰することがマネジメント上も重要だと考える。

「探究学習のゴールを設定し、適切に評価し、成果を発信・広報することが、管理職の責務だと思っています」

未来構想セミナーを通して「『自他のしあわせ』について考える経験は、大学入試という局面を乗り越えた後も、自分の人生を自律的に切り拓く力として残るはずだと、早坂校長は語る。『わくわくするか？』『新しいか？』『誰かの役に立つか？』という視点を大切にしながら『自他のしあわせ』を追究する生徒が、自分の持つ力の大きさに気づく機会をもっとつくりたいと思っています。1年次の先生方から『学校をどう変えるか？』とみんなが幸せになれるかを、LHRで考えさせたい』

といった案も出てきています。未来構想セミナーを含む様々な活動で生徒がデザイン思考を発揮できるよう、私たちも学校をデザインし続けます」

### 今回の実践事例の Point

- ✓ 生徒に「わくわくするか？」「新しいか？」「誰かの役に立つか？」を意識させることで、探究学習をより深まりのあるものにする。
- ✓ 教師が生徒の成長をつぶさに見取り、一人ひとりの長所を発見、認識させながら、生徒の探究学習に伴走する。
- ✓ すべての教師が探究学習、そして総合型・学校推薦型選抜の指導・支援にかかわれるよう、校内研修の充実と指導ツールの共有を図り、教師の指導力を向上させる。

\*最新の研究成果に、「教師の自発的なメンタリングはどのようにして実現し、何によって促されるか？」（日本質的心理学会編『質的心理学研究』第22号）

### 新課程に関する情報は、『ハイスクールオンライン』でお届けします！

- ・2025年度大学入試の各大学の公表状況についてまとめた資料を公開！
- ・過去のオンラインセミナーのアーカイブ動画・資料などを掲載！

一問一答や課題を解決！実践につながる！

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

『ハイスクールオンライン』トップページ＞新課程への対応からアクセス

[https://bhsso.benesse.ne.jp/hs\\_online/sidou/shinkatei/shidou/](https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/shidou/)

## 働き方改革

生き生きと働き続けられる  
学校づくりへの挑戦

「働きがい改革」を提唱する識者が、学校の働き方改革の実践をバックアップ。その実践の背景や具体的な取り組み、そして成果と課題を、複数回にわたってレポートします。



アドバイザー

愛媛大学大学院教育学研究科  
教授

**露口健司** つゆぐち・けんじ

主な研究テーマは、学校組織のリーダーシップ、学校組織のウェル・ビーイングとワーク・エンゲイジメントなど。国立教育政策研究所客員研究員、中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」臨時委員等も務める。

愛媛県立  
松山南高校編

第2回

負担感のある業務を見える化  
同僚性の向上と  
削減業務の  
見極めを図る

負担感のある業務を共有し、  
その改善策を出し合う

教師の働きがいは高いものの、長時間勤務の解消を課題としている愛媛県立松山南高校。8月下旬の校内研修で、各分掌の主任等から成る運営委員会の委員20人が、愛媛大学の露口健司教授の助言を受け、業務分析を行った。冒頭、露口教授は研修の趣旨をこう述べた。

「貴校では、働きがいを維持しながら長時間勤務を是正することが必要です。業務を一律に削減するのではなく、負担感のある業務や不要業務を見える化し、それを校内で共有して、業務削減や相互支援ができるようにしましょう」業務分析は、図1の手順で行った。自分の業務を、業務分析シートにある「働きがい」「焦り」「負担感」「手抜き」に

分類。その後、5人ずつのグループに分かれてシートの内容を共有し、負担感のある業務の改善策などを出し合った。「私は事務作業を『負担感』に置いた。

「私は事務作業は後回しにしがちで、気づくとたまっている」「どうせやらなきゃいけないので、自分はずるやるようにしている」「それは分かっているが、特にお礼状を書くのが苦手で……」「定型文を作っておくとよいのでは？」

そうした負担感のある業務の共有が、同僚性の向上にもつながると言った。「同僚のつらさに共感したり、人によって負担に感じる業務が異なることを理解したりすることで、互いに助け合おうとする意識が生まれます。普段一緒に仕事をする分掌などで今回のような研修を行うと同僚性が高まり、相互支援の促進に効果的です」(露口教授)

第1回の記事は下記のURL、または2次元コードからアクセスしてご覧ください。



[https://view-next.benesse.jp/view\\_section/bkn-hs/article16626/](https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-hs/article16626/)

## 学校概要

設立 1891 (明治24) 年  
形態 全日制・定時制/普通科・理数科/共生  
生徒数 (全日制) 1 学年約 360 人  
2022 年度卒業生進路実績 (全日制) 国公立大は、北海道大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、愛媛大、九州大などに 249 人が合格。私立大は、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ 576 人が合格。



校長  
**池田哲也**  
いけだ・てつや  
同校に赴任して2年目。

研修を終えて、池田哲也校長は、各教師の業務の捉え方が可視化されたことは、組織運営上も大きな成果だったと振り返り、今後の改革の決意を語った。

「例えば、保護者対応に長けていることを理由に、その業務を任せていた教師が、それを負担感のある業務に挙げていました。できる仕事であっても、それを負担に感じる場合もあることや、働きがいや負担感は、教師一人ひとりで違うことも分かりました。全教師に業務分析をしてもらい、その結果を基に削減業務を見極め、長時間勤務の是正を図っていきたいと思います」

\* 同校のスクールサポーターに関する取り組みは、本誌 2022 年 10 月号「指導改革の軌跡」で紹介しています。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』の「高校版バックナンバー」(<https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/>)、または右の2次元コードからアクセスしてください。



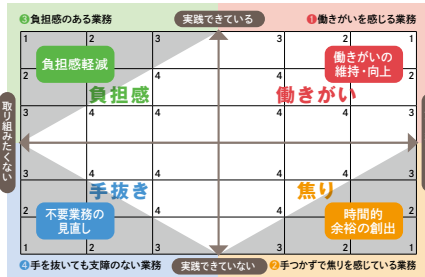
# 業務分析シートで業務を4つのゾーンに分類し、削減業務の判断材料に

図1 業務分析の手順

- ① 自分の担当業務を付せん紙に書く。
- ② ① で書いた業務が業務分析シートの4つのゾーンのどこにあてはまるのかを考え、該当するゾーンに付せん紙を貼っていく。その際、各ゾーンを9マスに分け、1～4の4段階で重みづけする。  
[4つのゾーン]  
働きがい「取り組みたい」かつ「実践できている」  
焦り「取り組みたい」かつ「実践できていない」  
負担感「取り組みたくない」かつ「実践できている」  
手抜き「取り組みたくない」かつ「実践できていない」
- ③ 負担感ゾーンの業務を中心に、グループで意見交換。負担感の共通点を探す(写真)。
- ④ 担当業務について、負担感ゾーンの業務を中心に、業務の意味や価値を見直す。その結果によって、業務のゾーンを移動させる。
- ⑤ 働きがいゾーンの業務はそのままとし、他の3つのゾーンの隅にある業務(シートのグレー部分)について、削減・外部委託などの改善策を検討。
- ⑥ ③～⑤についてグループ内で話し合った内容を全体に向けて発表して共有し、助言し合う。



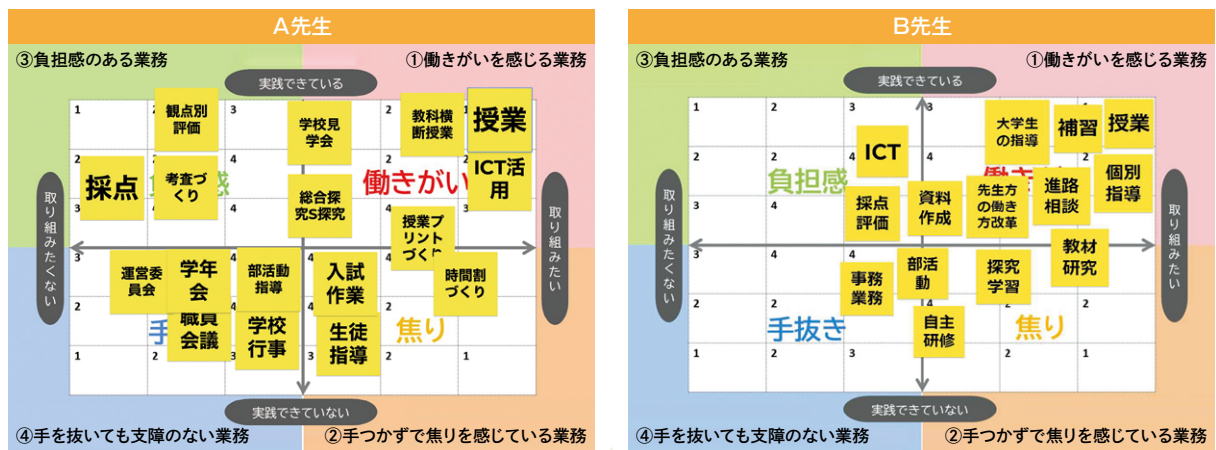
写真 各自の業務分析シートをオンラインで見ながら、自分が負担に感じる業務とその理由などを語り合った。負担感ゾーンの業務の共通点として、「逃げられない」「やらされている」などが挙がった。



業務分析シート 負担感ゾーンの業務を中心に改善策を検討する。「負担感のある業務には、生徒とかわりがなく、する理由が分からない(目的性の欠如)、いつ終わるか分からない(限定性の欠如)、提案・改善の余地がない(主体性の欠如)、その人と仕事をしたくない(関係性の欠如)」といった特徴があります(露口教授)

業務分析シートはダウンロードできます。ぜひ、校内研修でご活用ください。

図2 同校の教師が作成した業務分析シート(例)



A先生が「ICT活用」を働きがいゾーンに置く一方で、B先生は負担感ゾーンに置いた。それを見た露口教授は、「ICT活用は、働きがいを感ずる先生とそうでない先生に分かれやすい業務です。だからこそ、校内でノウハウを伝え合う研修を行い、ICTが苦手な先生の負担感を減らしていきましょう」とアドバイスした。  
※業務分析シートは、研修時のものをそのまま掲載。

## ● 研修を終えて

### スクールサポーターのよりよい活用につなげたい

進路指導課長 松田 猛 同校に赴任して6年目。数学科。

業務分析シートの共有やグループでの話し合いを通じて、誰がどの業務を負担に感じているのかがよく分かりました。どのような支援をすれば先生方の負担が減るのか、スクールサポーター(\*)に依頼する業務を見直すきっかけになりました。私自身は、担当業務の多くに働きがいを感じていますが、自己研鑽があまりできていません。改めてシートを見返し、業務を精選して、学ぶ時間をつくっていきたくと思います。



### 観点別評価を改善し、働きやすさを支援

教務課 河本潤也 同校に赴任して2年目。地理歴史・公民科。

「観点別学習状況の評価」は、授業改善に役立つなど、その意義は分かっていますが、定期考査での観点別の作問や採点などに時間がかり、大きな負担でした。今回、私と同じように、観点別評価の実施が他の業務を圧迫していると言う先生が多くいました。教務課として、他校との情報交換や外部研修を通じてノウハウを集め、観点別評価の方法などを改善することで、働きやすさや働きがいにつなげていこうと思いました。



業務分析シートは、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』からダウンロードできます。校内研修でご活用ください。  
<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article17052/> または右の2次元コードからアクセスしてください。



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任



# 地域や医療の実態などを学ぶゼミが、生徒も地域も活力を得る場に

和歌山県・私立近畿大学附属<sup>しんぐう</sup>新宮高校・中学校

## 取り組みの概要

近畿大学附属新宮高校・中学校は、2021年度から、地域と連携し、「放課後ゼミ」を開講している。同ゼミは、医療系志望者対象の「医療ゼミ」、地域活性化をテーマにした「地域ゼミ」、教師志望者対象の「教育ゼミ」、近畿大学と連携して水産の研究を行う「水産ゼミ」の4つから成る。中学3年生・高校3年生を対象に、月1回のペースで実施しており、希望者が通年で参加するほか、地域人材の講演会などは全生徒が参加できるように、進路意識の醸成も図っている。

医療ゼミでは、医療従事者による講演やワークショップ、大学入試の面接支援などを地域と連携して実施。医療系学部・学科の合格者数の増加を後押ししている。

地域ゼミでは、主に公務員を目指す生徒が地域活性化や地域貢献について学ぶ。22年度は、新宮市の観光地を巡るフィールドワークや「熊野魅力再発見コンテスト」への参加、新宮市役所や那智勝浦町役場の観光担当職員との座談会などを実施した。



## 地域の視点

命や地域課題に真摯に向き合う生徒の姿が、地域人材の活力になる

医療分野の地域連携は、14年度に地域の医療従事者による勉強会（\*1）に、生徒が誘われたのを機に始まった。救急救命士の速水敏人さんを代表とする勉強会のスタッフは、「一人の役に立ちたい」と熱心に参加する生徒に感動し、メディカルラー（\*2）の高校生版「紀南メディカルラー甲子園」を企画（写真1）。同校を含む地域の複数の高校が参加する大会とし、毎年夏に開催している。「命と真剣に向き合う高校生の姿にいつも涙が流れます。私たちも改めて命の貴さを思い、もっと人の役に立つために学び直そうと意欲が湧いてきます」と、速水さんは語る。



写真1 「紀南メディカルラー甲子園」では、「地震発生時に介護施設の入居者を避難させる」などの設定で、自ら判断して対応することができるかを競う。

医療ゼミは、勉強会や大会を通じて懇意となった医師や看護師、卒業生の医療従事者等と連携して実施している。

地域ゼミで行った新宮市役所の職員と生徒との座談会では、「この道は危ないのでミラーをつけてほしい」と、自転車を通う高校生らしい意見が出された。総務課の畑下鎮男さんは、「ゼミは市民である高校生に地域理解を促すとともに、行政にとっては多様な市民と語り合い、よりよい市政を考える場になっています」と、地域ゼミの意義を語る。その観点から新宮市役所では、ゼミへの協力を職員研修の1つに位置づけている。



新宮市役所 総務部総務課職員係係長  
**畑下鎮男**  
はたした・しずお  
2021年度から放課後ゼミにかかわる。



熊野市消防本部 救急救命士  
**速水敏人**  
はやみ・としひと  
2014年度から同校と連携。

\* 1 三重県の紀南病院・消防・医師会による「紀南救急勉強会」。2014年から、地元の医療従事者が参加する「紀南メディカルラー」を開催。  
\* 2 医療従事者がチームで参加し、模擬の災害現場で救急活動を競う競技会。

## 学校の視点

### 幅広い地域人材との交流が、生徒の進路への視野を広げる

紀南地区を代表する進学校の同校は、10年前から地域への人材の還流を教育目標の1つに掲げている。14年度に始まった医療分野での地域連携以降、有志の教師を中心に、地域と連携した進路学習を推進する、教師・公務員志望の生徒対象の教育活動に発展した。

そして21年度、一連の活動を学校の特色の1つとするため、4つのゼミに再編した。進路指導部長の榎本圭吾先生は、「医療現場や地域について知るこ

とで、生徒の中で郷土愛や課題意識が醸成され、地域に戻る人を増やすとともに、生徒が大学入試の志望理由書や面接において、自分の強い志を語れるようになりたいと考えました」と語る。

医療ゼミでは、医療従事者が現場の過酷な状況を生徒に率直に伝える。生徒にとっては医療分野に進む覚悟を持つていかどうかの場であり、進路選択のミスマッチの防止につながっている。また、医療分野の多様な職種の仕事者が講師を務めてくれる利点は大きい。「現場で重視されるチーム医療

の素養を育むことにもつながります。幅広い人材と出会えるのも地域連携のよさです」と、池上博基校長は語る。

大人との交流は生徒の自己肯定感も高めている。地域ゼミ担当の大石泰義先生は、「観光や防災に関する生徒の様々な提言に、職員の方は耳を傾けてくれます。生徒もそれに応え、地域に役立ちたいという思いを強くしています」と語る。



校長  
**池上博基**  
いけうえ ひろき  
同校に赴任して30年目。



進路指導部長  
**榎本圭吾**  
えのもと けいご  
同校に赴任して20年目。医療ゼミ担当。英語科。



校務広報部長  
**大石泰義**  
おおいし やすよし  
同校に赴任して30年目。地域ゼミ担当。地理歴史・公民科。

## 地域学校の視点

### 地域人材との連絡などにも生徒がかかわること、持続可能な地域連携に

地域連携の成果は、進路実績や生徒の進路選択に表れている。学校推薦型選抜における三重大学医学部の地域枠や、和歌山大学教育学部の地域【紀南】枠などの設置もあり、医療系学部や教育学部に毎年一定数が合格。公務員志望の生徒は、以前は公務員試験を見据えて法学部に進学する者が多かったが、ゼミで地域課題に向き合った経験(写真2)から、地域創生や街

づくりなどの将来像を具体的に持つて学部・学科を選択するようになった。大学卒業後に地元に戻り、医療や行政に携わる卒業生も出てきている。

今後の課題は、ゼミの活動をいかにして継続・拡大するか。現在の活動は担当の教師や地域人材によって支えられている。「生徒の募集や地域人材との連絡、講師の確保など、様々な業務をどのように軽減するかが、地域連携を継続する鍵になると考えています」と、榎本先生は語る。



写真2 世界遺産「熊野古道」を有する新宮市。国内外から大勢の観光客を迎える立場を踏まえて、高校生と市役所職員が意見を述べ合った。

そこで、地域人材との連絡など、教師が担う業務の一部を生徒が担当することを検討中だと、池上校長は語る。「地域連携に主体的に取り組んだ生徒が、大学卒業後に地元に戻って母校の教育活動を支えるといった循環をつくることで、持続的に地域連携を行える環境を整えることを目指します」

#### 学校概要

設立 1963(昭和38)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約110人

2022年度卒業生進路実績 国公立大は、静岡大、三重大、大阪教育大、神戸大、和歌山大、三重県立看護大、奈良県立大、和歌山県立医科大などに23人が合格。私立大は、明治大、同志社大、立命館大、関西医科大、関西大、近畿大などに延べ179人が合格。

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

〈本コーナーは隔号連載です。次回は2月号の予定です〉



色と色を黒いボンドでつなぐボンドアートでは、それぞれの色や形が混ぜ合わされたり、崩されたりすることなく存在し続ける。すべての人のありのままが尊重される社会を希求する富永さんは、「アートに失敗はない！」をキーワードに活動している。

## Who is this person?

### 「つながり」を創り、社会課題に向き合う 世界でただ1人の「ボンドアート」アーティスト

1983年福岡県生まれ。高校は情報処理科に進学。その後、家具づくりの専門学校に進み、家具メーカー勤務、グラフィックデザイナーを経て、アートの世界へ。木工用ボンドを使った独自の技法「ボンドアート（登録商標）」の創作のテーマは「つなぐ、つくる」。作品は海外でも評価され、ニューヨークやパリのギャラリーと作家契約を結んでいる。2014年から佐賀県多久市に移住。地域ににぎわいを取り戻すため、ウォールアート（壁画・シャッターアート）プロジェクトを発案。さらに、ボンドアートを楽しむ認知症カフェを作業療法士の妻とともに開催し、子どもの居場所づくりと多世代交流を目的とした子ども食堂を開くなど、アートを通して社会課題にも向き合っている。



黒く着色した木工用ボンドを使って、色と色の境目をつなぐ「ボンドアート」。



カフェやギャラリーなどを併設する活動拠点「ボンドバ」で、子ども食堂を開いている。

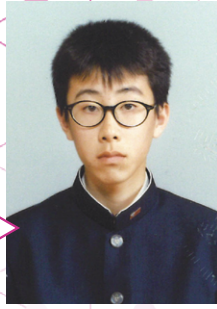
現代アート作家 富永ポンド

「つながりを通して伝えたい。  
アートにも人生にも  
失敗はない！」ことを。

## 個性を発揮できない故、個性を非難する若者たち

「自分には絵心がない」。そう言う人は少なくないですよ。でも、誰しも子どもの頃は、絵を描くことを楽しめていたはず。だだけ絵の出来を人と比べられるようなことがあって、うまく描こうという気持ちが強くなり、絵を楽しむ心が次第に失われていく……。

「アートに失敗はない！」をキーワードに、学校や医療・福祉施設、イベントなどでワークショップを行い、これまで2万人以上にポンドアートを体験してもらってきたのも、創作



### 私の高校時代

絵を描くことは好きでしたが、人より抜きん出たわけではありませんでした。中学校でのパソコン実習がきっかけでコンピューターに興味を持ち、高校は情報処理科に進学しました。当時はプログラマーを目指していました。

プロセスを楽しむ中で「自分にしか描けない」アートを楽しみ、成功体験を味わってほしかったからです。

「まるで落書き」「意味が分からない」。僕の作品に対して、そんな誹謗中傷のコメントがSNSを通して送られてきます。過激なコメントの多くは10代の子たちのものです。普段の生活の中で、自分を正直に表現できず、そのイライラを僕にぶつけているのかもしれない。そうしたコメントに対して僕は、「そう思う人がいてもいい。でも、これが僕の絵であり、個性なのです」と、SNS上で答えます。すると今度はそれを見た人たちから、「自分も周りからイジられることがあるのですが、どうやってメンタルを保っていますか?」といった相談が来ます。それに対して僕は、こんなふうに返します。「いろいろ言われても大丈夫。それがあなたの個性なんだから」と。

### 「つながり」の中で自分と他者を尊重する

情報があふれている現代は、選択肢が多くあり過ぎて、かえって自分のやりたいことが見つけにくくなっていると感じます。僕が若い人たちに勧める

のは、楽しそうなことや興味を持ったことをとりあえずやってみる事です。思い切りやってみて、期待していたほど楽しくなかったり、飽きたりしたら、やめればいいのです。

やめることは決して悪いことではありません。僕も、パソコンの勉強を高校だけでやめたけれど、知識はちゃんと得られたし、今もパソコンは得意です。家具メーカーも1年くらいで退職しましたが、木工用ポンドで絵を描き始めたのは、その会社での経験があったから。飽きたと言えるくらい没頭することができたのなら、得たものも必ずあるはずです。

何を始めて、何をやめるか。その判断も一人ひとりの個性です。だから学校の先生には、何か新しいことをやってみようとする生徒はもちろん、もうやめようと思っている生徒も温かく見守ってあげてほしいと思います。そんな学校の中で、人と違ふことを恐れない心や、「人生に失敗はない!」と思える心が育つのだと思います。

僕が「つながり、つくる」を創作のテーマとしているのは、自分と他者との違いを尊重し合える社会を創りたいからです。つながらなければ他者のことは分かりません。ウォールアートも、ア

トリエでの認知症カフェや子ども食堂も、どれもアートの力で人をつなぐものです。社会の問題を提起し、「つながり」という視点で解決策を提案するのは、アーティストとしての自分の仕事だと思っています。

様々なテーマについて語りながらポンドアートを制作する動画を「ニコロ」に投稿。いじめなど悩みを抱える10代の質問に答えた動画も多い。



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任



今号の「先生なら、どうしますか?」の取材で、数年ぶりに鳥取を訪れました。本コーナーを始め、探究学習や授業実践の取材を通じて改めて感じているのは、先生方の生徒への深い愛情、想いです。一人ひとりの可能性を信じ、よりよい人生を願い、日々研鑽を積んで生徒さんに向き合われていることが、よりイメージできるようになりました。

鳥取は、この仕事を通じてご縁をいただき、何度も訪れた思い出深い場所ですが、鳥取砂丘を初めて見た時の驚きは今でも覚えています。この広大な砂丘は、長年かけて砂が少しずつ運ばれて自然に作られたもののだそうです。少しずつの積み重ねが、こんなにも大きなものに結実する。先生方が生徒にかけるひと声や、背中を押すひと押しが、今日も全国の学校にあふれているのだと思います。そうした先生方の元へ『VIEW next』をお届けしているのだと、その情景を思い描きながら記事を作っていきたいと思います。(青木)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2023年12月号

12月15日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は  
年6回の発刊です。

## Reader's VIEW

先生方からのご意見を  
紹介します

2023年8月号へのご意見

## 「マイ・ストーリー」づくりの添削指導の参考にしたい

本校では、生徒が「マイ・ストーリー」を語る状態にしようと、自分の希望進路を教師にプレゼンテーションする活動を、進路指導部が企画して行っている。教師の添削指導が、8月号の特集の課題整理の記事にあった図6「自分の軸に基づき、経験や志向を整理する」に示されていた『「マイ・ストーリー」になっていない状態(例)』であることが多いように感じていた。非常に分かりやすい図で、『「マイ・ストーリー」になっている状態(例)』にすべく、添削の参考にしたい。

北海道 匿名希望

## 「マイ・ストーリー」づくりの支援のノウハウ共有が大切

8月号の特集に掲載された熊本県立宇土中学校・宇土高校が行っている、探究の「問い」を創る授業の記事が参考になった。日々の学びの振り返りを行う中で、次の課題の設定へとつなげていく過程がとても重要であることがよく理解できた。生徒の「マイ・ストーリー」づくりの支援のノウハウを共有することは、若手教師が増えていく中で必要なことだと考える。

和歌山県 匿名希望

## 「日々プリ」が、模索していた取り組みへの大きなヒントに

8月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された岐阜県立大垣北高校の落合一太先生が行う数学の授業の記事にあった「日々プリ」の実践について、その位置づけや目的、評価の仕方など、すべてが参考になった。特に、関連に気づいてほしい単元や混同しやすい単元の「日々プリ」を差し込むのは、長い目で見れば、生徒にとって数学の世界をシンプルにする効果があるのだと思う。定期考査で似た要素を試そうと模索していたところだったので、大きなヒントになった。

福岡県 匿名希望

## 「評価の本質を押さえる」というスタンスでの発信に共感

新学習指導要領が実施され、観点別学習状況の評価は避けて通れない。本県の教務主任連絡協議会で観点別評価をテーマにグループ討議を行い、各校の状況を共有したところ、どの学校も手探りで、実践しながら見直している段階にあった。本校でも評価規準について、昨年度の反省を踏まえ、今年度始めに見直しを行った。8月号の「そうだったのか! 学習評価」の記事は、「ガチガチにやるのではなく、本質を押さえて!」というスタンスで書かれており、学校現場に寄り添っていると感じた。

山形県立米沢東高校 高橋英路

## 「生徒のありのままの学び」を土台とした見事な授業構成

8月号の「教室から始める ウェルビーイングな社会」の福岡県立ありあけ新世高校 定時制課程の記事を読み、定時制ならではの課題を抱えつつも、多様な生徒のありのままの学びをベースにした授業構成が見事だと思った。褒めることにとどまらず、各界の第一人者に生徒を受け止めてもらったことで、生徒が学び続ける力を得たことは想像に難くない。教師だけでは生徒の能力を引き出したり、背中を押したりすることが困難な場合もあり、教師以外の社会人と触れ合うことで生徒が気づくことも多いと感じた。

東京都・私立岩倉高校 松本祐也



## VIEWnext 編集部からのお知らせ

## 教育総合情報サイト VIEWnext ONLINE

## 本誌連動 ウェブオリジナル記事のご紹介

教育総合情報サイト『VIEW next ONLINE』には、『VIEW next』高校版本誌と連動したウェブオリジナル記事を掲載しています。誌面でお伝えし切れなかった内容をまとめた記事や、授業実践のダイジェスト動画をぜひご活用ください！

アクセスは  
こちらから！

URL <https://view-next.benesse.jp/view/>

検索ワード

検索

2次元コード



下記の記事や動画には、2次元コードからダイレクトにアクセスできます。

## 今号の本誌連動記事

特集 課題整理

## 2025年度大学入試の情報整理

P.4～6と連動

25年度入試について、各国公立大学の大学入学共通テストと個別学力検査における出題教科・科目の取り扱いや試験範囲などの公表情報を、一覧表にまとめています。

先生なら、  
どうしますか？

巻頭と連動

真面目な生徒の携帯電話に関するルール違反を一瞬見逃そうと思った教師が、足を止めたのはなぜか。鳥取県立鳥取東高校の福島卓也先生の指導観に迫ります。



## 今号の授業実践ダイジェスト動画

発問・課題設定を十一に見る

主体的・  
対話的で  
深い学び

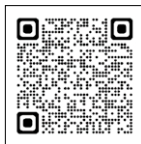
授業実践

記事はP.18～25

## 音楽

北海道羽幌高校  
小山知倫

音楽的な見方・考え方を働かせ、  
自分の思いや考えを表現する力を高める



## 生物

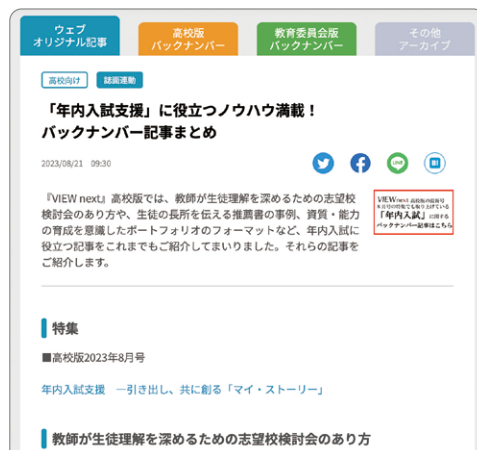
東京都・私立三田国際学園中学校・高校  
大野智久

概念的な知識の理解を重視し、  
「教え過ぎない授業」に



おかげさまで 大好評！

8月号の特集テーマ「年内入試支援」  
に役立つバックナンバー記事のまとめも  
ぜひご活用ください！





生徒と創る学びの情景

## 新世界への扉

広島県立呉三津田高校 山本啓太先生



「本当によく頑張る人たち」。山本先生は、クラスの生徒のことを、敬意を込めてそう呼ぶ。日々の学習や自らテーマを設定して取り組む探究学習など、自分のやりたいこと、やるべきことに力を注ぐ生徒たちを尊敬しつつ、今頑張っていること以外についても目を向け、自分の世界をもっと広げてもらいたいと、担任として願う。高校生としての目標を達成した後も、人生は続くのだから――。

面談で、一人ひとりの志望を受け止めた上で、その生徒がそれまで考えてこなかったような進路の選択肢を示すよう心がけているのも、人生の新たな可能性に気づかせるためだ。「この先どうなっていくのか予測が難しい時代をきているのだから、今自分がいる場所とは違うところにも目を向けなさいと先生に言われた気がする」と面談を振り返る生徒の顔に、未知の世界へと続く扉の存在に気づいた喜びがにじむ。「ICTを使えば、いつでもどこでも、そして1人でも学べる時代になったからこそ、クラスの仲間や私たち教師と向き合うことで、自分の世界が広がっていく感動を学校で味わわせたい」と山本先生。新しい世界につながる扉を、今日も生徒と一緒にノックする。

**やまもと・けいた** 同校に赴任して3年目。数学科主任。進路指導部副主任。3年生生理数探究類型担任。  
**広島県立呉三津田高校** 1907（明治40）年設立／全日制／普通科／共学／1学年約200人／2022年度卒業生進路実績 国公立大は、京都大、大阪大、岡山大、広島大、九州大などに100人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ440人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル **0120-350455** [受付時間] 月～金8:00～18:00/土8:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17